

36年6月梅雨前線集中豪雨災害記録



長野県下伊那地方事務所

課

92

## 発刊にあたって

昭和36年6月末飯田、下伊那地方を襲った梅雨前線の影響による集中豪雨は、飯伊地方としても、本県としても、その被害の激甚さにおいて、極地的に人的死傷の多かつた点において、またあらゆる悪条件のもとにおいて発生したことなどを考えあわせると、恐らく未曾有のものであり、今後再びあり得ない大災害であつたと思う。

埋没した家を掘り出したり、河原と化した耕地に立つて、現在被災者始め、地方民関係機関等はこの大禍を転じて福となすべく、涙ぐましく復興に立上りつつあるが、科学の力と国の大きな力等によつての復旧と、平和な郷土再建の一日も速やかならんことを期待するや切なるものがある。

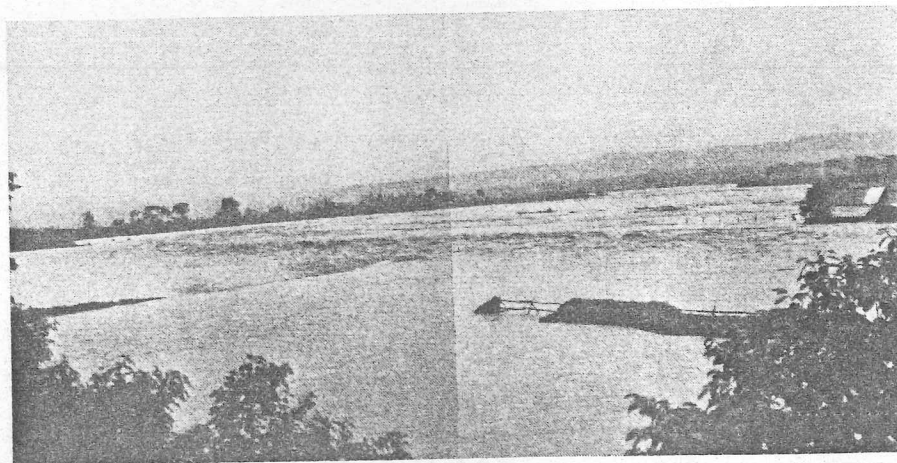
今次災害を回顧し発生当時の模様、被害の状況、救助救援の活動、復旧立上りの状態等を収集記録し、今後の参考に資したいと思ひ本書を発刊した次第である。

資料は各方面の御協力によつて収集したが、特に当所の商工建築課主幹横田実、総務課課長補佐松崎忠義（前）、代田春男（現）、厚生課課長補佐片桐重明、農地経済課農務係長福田千秋の諸君が極めて多忙の中を記録の整理収集に従事願つたものであることを附記し発刊のごあいさつとする。

昭和36年10月20日

長野県下伊那地方事務所長

西 沢 正 巳







## 目 次

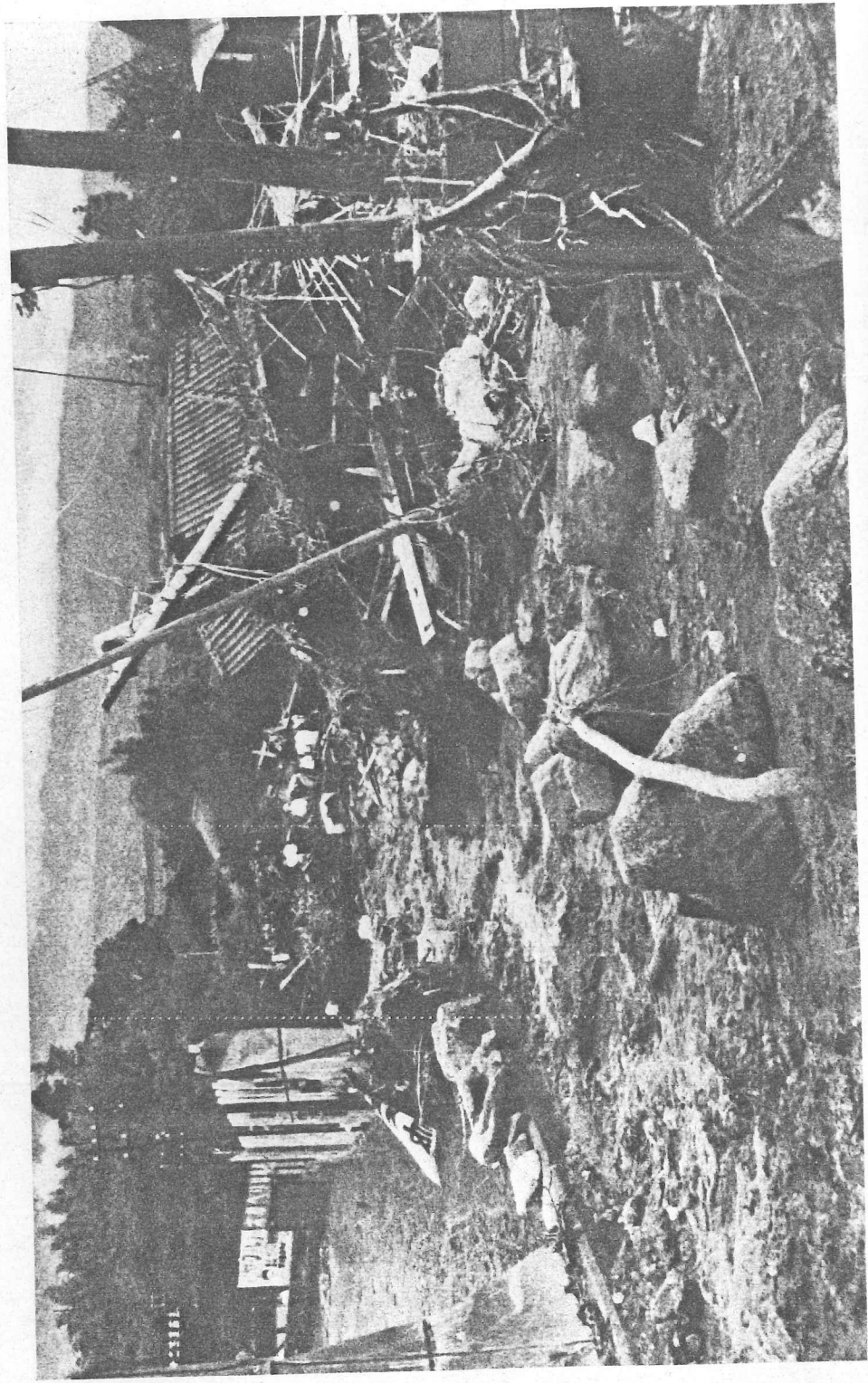
発刊にあたって

1 災害日誌	(1)	(3) 農業災害	(45)
2 伊那谷水害の歴史	(6)	(4) 耕地災害	(51)
3 6月発生の梅雨前線集中豪雨の状況	(8)	(5) 林務災害	(52)
4 災害応急対策本部	(11)	(6) 商工業災害	(54)
5 自衛隊の活動	(13)	(7) 学校災害	(55)
陸上自衛隊派遣人員調	(15)	(8) その他の災害状況	(55)
ヘリコプター実動機数調	(16)	中部電力関係	(55)
ヘリコプター輸送実績(町村別)	(17)	国鉄関係	(55)
松川ヘリポートにおける救助物資輸送の状況	(18)	(9) 税務関係災害対策	(56)
6 日赤救護班、現地医療班の活動	(22)	各種被災状況表	(57)
恐ろしい傷あと	(22)	9 各機関の災害活動	(75)
日赤救護班、現地医療班活動状況表	(25)	(1) 飯田保健所の災害防疫業務	(75)
7 災害救助対策	(26)	(2) 警察署活動	(78)
(1) 被害状況の報告	(26)	(3) 飯田公共職業安定所の活動状況	(78)
(2) 災害救助法の発動	(26)	(4) 飯田職業訓練所訓練生徒派遣状況	(81)
(3) 災害救助に要する期間	(26)	(5) 下伊那郡町村会	(82)
(4) 続出する被災者の応急救助	(27)	10 災害に伴う移住問題	(83)
(5) 応急仮設住宅の建設と応急修理	(28)		
(6) 災害救助物資の給与	(28)		
災害救助関係一覧表	(29)		
8 各種被害とその対策	(42)		
(1) 土木災害	(42)		
(2) 住宅災害	(43)		

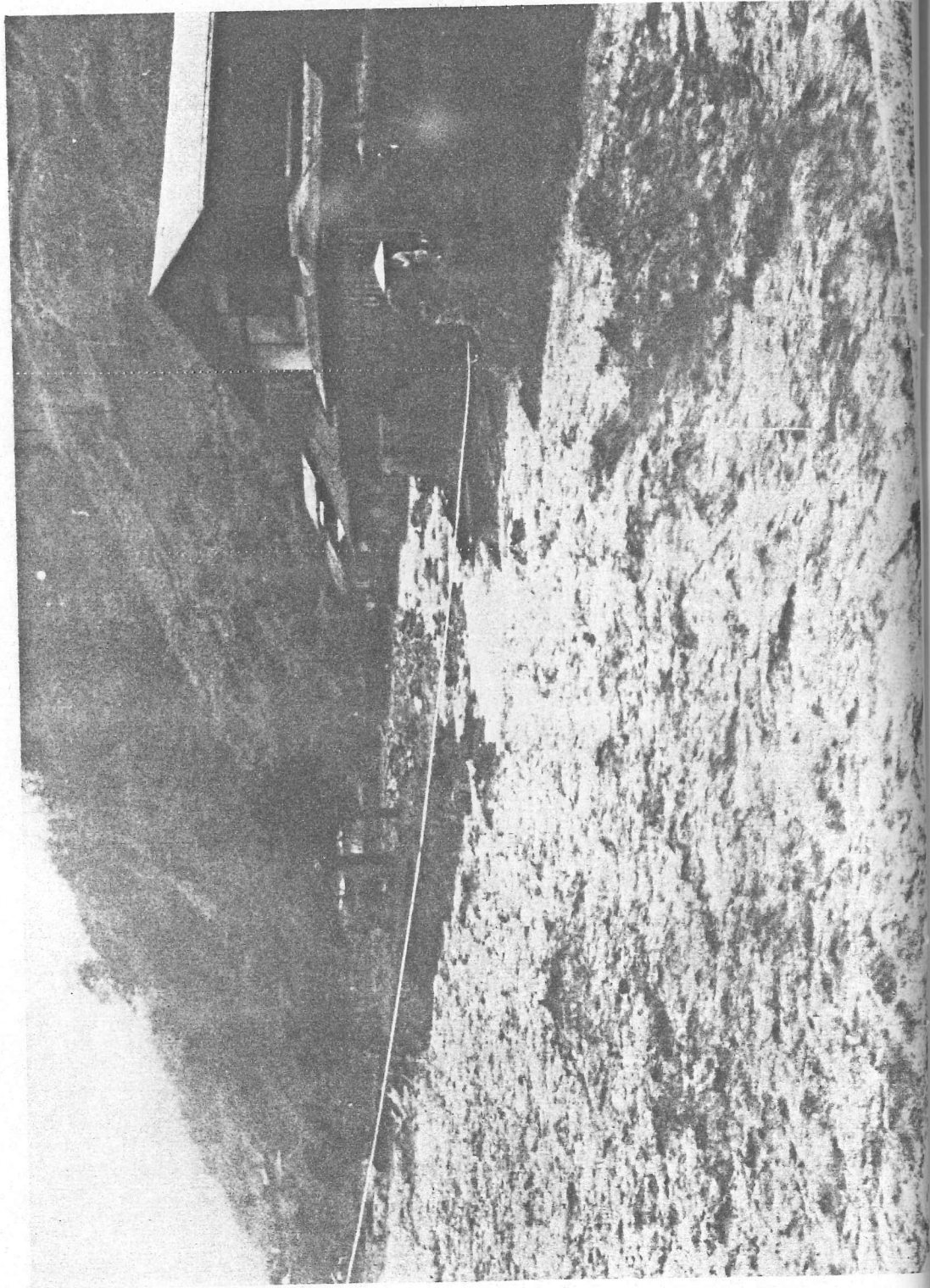


大沢川氾濫による高森町出砂原耕地

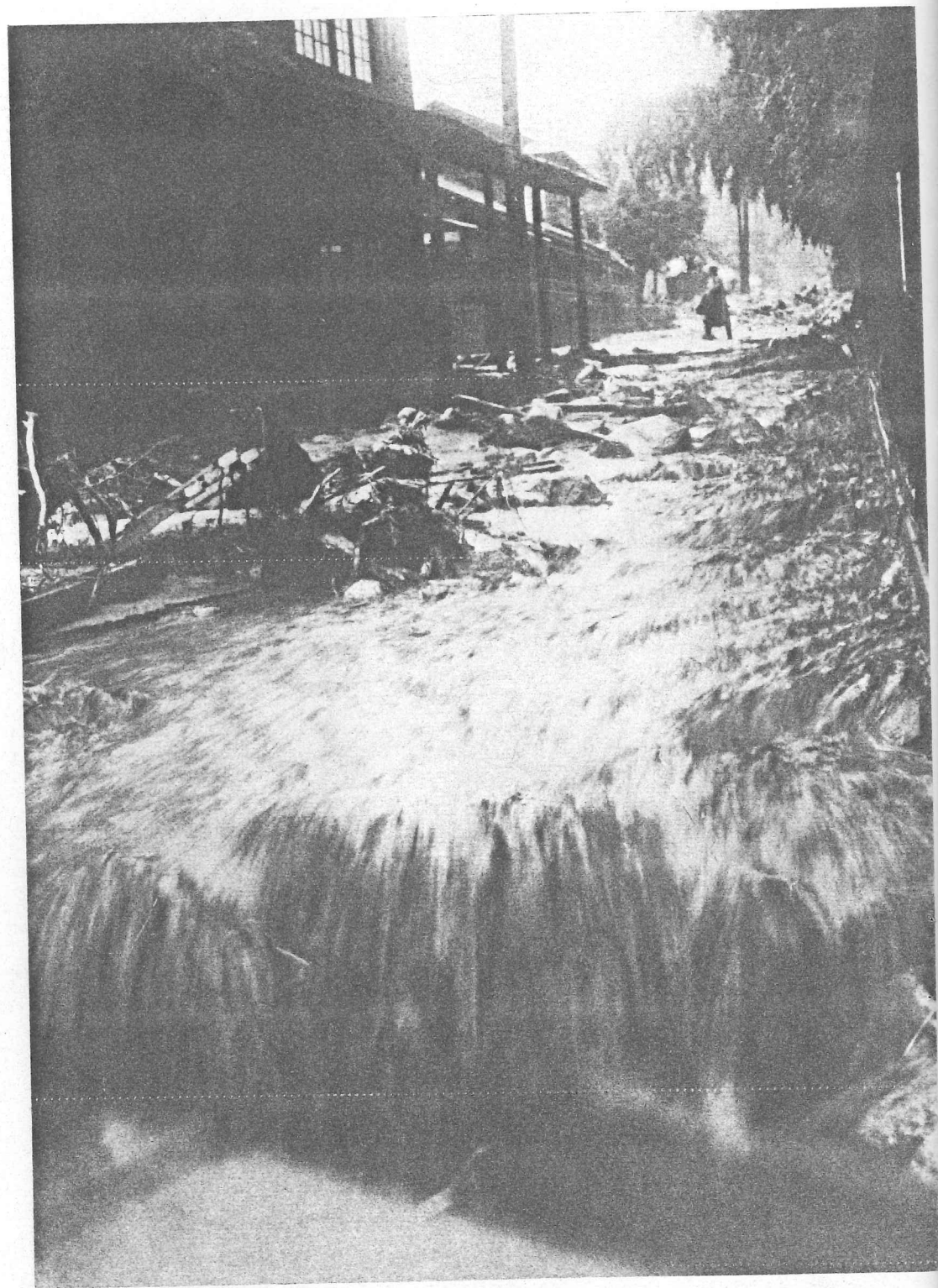




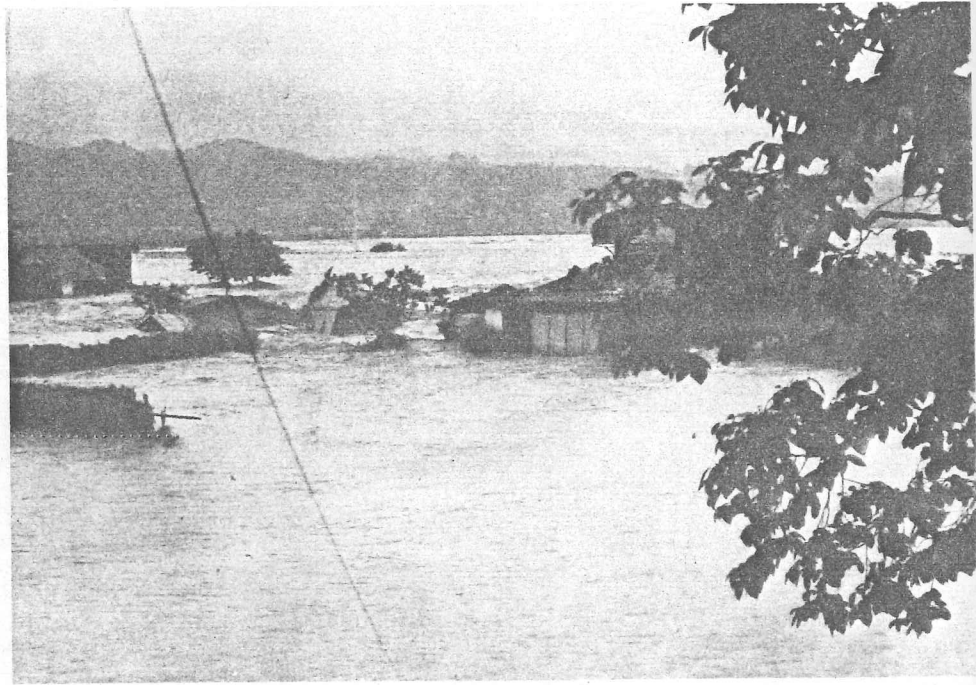
飯田市富近







飯田市丸山附近



豊丘村伴野附近



飯田市川路地区



# 1 災 害 日 誌

6月27日(火)

時刻

- 9時 6月23日より降り始めた梅雨前線豪雨は27日に至り、愈々雨量を増し、本朝9時から28日朝9時までの降雨量は実に325.3耗(飯田市)となる。最高時は1時間当り40耗であつた。
- 13時 竜江村及び飯田市の松尾、川路地区に出水、川路小学校避難準備の情報入る。
- 15時 降雨量1時間当り32.2耗、所長、課長会議を招集、所長の命により職員全員非常態勢に入ること申渡す、被害1部入手状況を県庁へ連絡、床上浸水2戸、床下浸水30戸、田畑冠水80町歩、道路崩壊8か所、自動車不通10か所。
- 17時 降雨量1時間当り30.2耗、災害救助対策本部設置、現在までの被害状況県庁連絡、各町村へ災害情報入手のため電話を入れる。  
人的被害、死亡1名、行方不明2名、重傷3名、軽傷2名、計8名  
家屋被害、全壊2戸、流失3戸、半壊5戸、浸水(床上)2戸、(床下)579戸、計591戸  
田畑被害、流失21町歩、冠水350町歩
- 20時 降雨量1時間当り5.5耗、時間的に雨量減少す。被害状況県庁報告、人的被害、死亡2名、行方不明7名、重傷4名、軽傷2名、計15名  
家屋被害、全壊12戸、流失5戸、半壊8戸、浸水(床上)30戸、(床下)833戸、計888戸  
田畑被害、流失41町歩、冠水370町歩
- 23時 降雨量1時間当り12耗、雨量増大の傾向、被害状況情報入る。  
人的被害、死亡4名、行方不明12名、重傷11名、軽傷28名、計55名  
家屋被害、全壊23戸、流失21戸、半壊102戸、浸水(床上)162戸、(床下)1,086戸、計1,394戸  
田畑被害、流失54町歩、冠水504町歩

6月28日

- 1時30分 降雨量1時間当り4.8耗  
被害状況情報入る。人的被害死亡5名、行方不明12名、重傷12名、軽傷28名、計57名  
家屋被害、全壊25戸、流失28戸、半壊112戸、浸水(床上)272戸、(床下)1,209戸、計1,646戸  
田畑被害、前日と同様  
社会部長来郡連絡あり、(中電無線)

2時 自衛隊先発隊50名入飯無線あり、管内電話殆んど不通となる。

6時 自衛隊200名入飯連絡あり、(警察無電)。飯田測候所より連絡、豪雨は南部に局地的にあるから注意のこと。  
被害状況情報6時現在とやや同じ。

11時 県人事課より警察無電により県職員の住宅並びに人的被害のあつた場合は速やかに連絡のこと。

被害状況情報入る。

人的被害、死亡19名、行方不明17名、重傷22名、軽傷16名、計74名

家屋被害、全壊123戸、流失80戸、半壊161戸、浸水(床上)447戸、(床下)717戸

田畑被害、流失1,580町歩、冠水2,640町歩

12時 飯田測候所より連絡、降雨量1時間当り12耗、県下の豪雨は下火となり河川の増水は減少する、洪水警報は洪水注意報に切替える。

社会部長、唐沢鹿男氏現地視察のため入飯する連絡があつた。

14時 貯水池故障のため断水となる。

鼎町、松川町、豊丘村、高遠町、有線放送不通となり、町村間の連絡は全く杜絶となる。

自衛隊の急援を要請

町村長来所陳情

自衛隊先発隊入飯

17時 上伊那地方事務所より連絡、自衛隊来飯する人員387名、県議代表14名、事務局を含む20名、29日夕刻までに飯田に入る。

変電所故障のため管下電燈全部停電となる。

20時 測候所連絡、降雨量やや増大1時間当り12耗となる見込み、県下南部地方は特に注意のこと。

町村被害状況情報5時現在

人的被害、死亡25名、行方不明25名、重傷43名、軽傷43名、計136名

家屋被害、全壊127戸、流失113戸、半壊187戸、浸水(床上)571戸、(床下)3,177戸

田畑被害、流失1,620町歩、冠水2,860町歩

社会部長唐沢鹿男氏一行到着

24時 松川町より災害対策本部設置の連絡

所長訓辞、本部の活動はこれからである身体に充分注意し郡民のために尽されたい。

測候所連絡、本日の降雨量52.5耗

6月29日

6時 電報電話局より連絡、電報については、発信するも到着時刻は全々不明。電話については管内——山吹局、会地局の一部。管外——伊那市、松本市、長野市、東京都は可能なるも

普通報では全く不可能である。町村連絡は伝令または警察電話によること。

- 8時 建設事務所より連絡、諏訪湖水門放水量 185 屯、湖畔は 700 町歩浸水、釜口放水のため下流増水するから注意のこと。特に天竜川沿岸町村は充分なる警戒するよう連絡をとる。
- 10時 中島代議士より電報、明朝 8 時 10 分新宿駅発で飯田市へ向う。
- 12時 飯田測候所連絡、豪雨は再び強くなる、全県下的に 50 耗以上となる見込。南部は特に強い。山岳地帯は特に甚だしくなるから山崩れが起き易い注意のこと。上伊那地事より連絡、県議一行 20 名が 5 時上伊那出発、飯島まで電車、それからは自動車を用意されたい。
- 14時 大鹿村長より非常電報「医療物資、至急救療たのむ返事まつ」  
松川町長より非常電報「交通杜絶、復旧困難のため自衛隊の派遣たのむ」、県庁から連絡、知事出発せり、県庁から連絡、副知事明朝出発する予定
- 17時 飯田警察署より連絡、県庁職員 33 名応援として出発した。町村への連絡意のままにならず。
- 20時 所長注意、職員やや疲れた模様注意されたい。大鹿村長より連絡「けが人、医療品、衣類、食物至急たのむ」、知事一行来る。自衛隊 936 名入飯す。県庁応援隊 33 名来る。

#### 6月30日

地元西沢、松下、今井県議来る。知事、郡市罹災地視察。知事に対し早期救援対策について陳情。島津日赤本社長来る、罹災地視察。中島代議士、建設省宮下査定官来る。自衛隊 963 名入飯す。救援航空隊ヘリコプター 2 機到着、直ちに物資輸送並びに日赤救護班出動。大鹿、生田、上郷村、鼎町等、自衛隊派遣要請に来る。

#### 7月1日

赤沢代議士一行来る。救援航空隊ヘリコプターにて大鹿、生田へ物資輸送。小酒井、下平両代議士一行来る。米軍ヘリコプター明日来るとの連絡あり。中電加藤副社長一行見舞に来所。自衛隊 348 名入飯。宮沢代議士来る。喬木村自衛隊派遣要請に来る。松川町へ直通電話を設ける。

#### 7月2日

建設省山本技監入飯の連絡あり。日赤義援物資到着。泰阜村長、南信濃村長来所。自衛隊派遣を要請。自衛隊 44 名入飯。中島代議士打合せに来所。米軍ヘリコプター 6 機、自衛隊ヘリコプター 12 機到着。救援航空隊ヘリコプターと共に 20 機となる。物資輸送を本格的に開始。南信濃村、松川町、阿南町へ空輸。

#### 7月3日

県救助対策本部より連絡、応援隊員は 5 日間応援を延期のこと。ヘリコプター 22 機飛

ぶ。大鹿、生田の一部に主として米、味噌、醤油、医療品を投下す。

建設省山本技監来所、罹災地視察。山本技監に対し陳情。自衛隊 21 名入飯。

#### 7月4日

中村建設大臣一行来る。副知事現地視察。厚生省社会局長大宰博邦氏一行来る、現地視察。ヘリコプター 12 機大鹿、生田方面へ飛ぶ。自衛隊 169 名入飯。米軍航空隊 6 機帰る。自衛隊との調整会議を開く。

#### 7月5日

建設大臣一行現地視察。厚生省社会局長現地視察。所長、課長会議を招集打合せ。ヘリコプター 10 機、大鹿、生田、阿智、天竜、南信濃村へ飛ぶ。自衛隊 55 名入飯。自衛隊との調整会議開催。清内路村、上郷村から自衛隊派遣要請来る。

#### 7月6日

八田農林政務次官来所、現地視察。陳情を行なう。県町村会正副会長見舞に来所。自衛隊 19 名帰隊。ヘリコプター 21 機飛ぶ一阿智村、天竜村、大鹿村、南信濃村方面。竹本県職執行委員長来所。自衛隊との調整会議開催。

#### 7月7日

参議院代表、青木、羽生議員他来る、陳情を行なう。自衛隊との調整会議開催。ヘリコプター 20 機飛ぶ一 大鹿、生田、阿智方面。自衛隊 175 名帰隊。

#### 7月8日

県応援職員帰庁。ヘリコプター 14 機大鹿、阿智、南信濃村方面へ飛ぶ。自衛隊 43 名帰隊。自衛隊との調整会議開催。

#### 7月9日

浜井場小学校において自衛隊の一部解散式。自治省柴田官房長来飯の連絡あり。自衛隊との調整会議開催。ヘリコプター 14 機、大鹿、生田、阿智、南信濃村方面へ飛ぶ。自衛隊 20 名入飯。

#### 7月10日

県議会商工林務委員来る、現地視察。ヘリコプター 12 機飛ぶ。大鹿村の藪の輸送及び南信濃村へ。自衛隊との調整会議開催。自衛隊 34 名帰隊。地元県議との打合せ会を開催。



7月11日

衆議院各党代表者来所。陳情、視察。自衛隊との最終の調整打合せ会議開催。ヘリコプター4機大鹿村へ飛ぶ。自衛隊873名帰隊。

7月12日

ヘリコプター4機大鹿村へ飛ぶ。自衛隊169名帰隊。

7月13日

ヘリコプター4機大鹿村へ飛ぶ。自衛隊371名帰隊。

7月14日

自治省柴田官房長来所、陳情を行う。ヘリコプター4機大鹿方面へ飛ぶ。松川中学において自衛隊解散式を行なう。自衛隊289名帰隊。

7月15日

柴田官房長現地視察を行なう。自衛隊560名帰隊。

## 2 伊那谷水害の歴史

本年6月の梅雨前線による集中豪雨は、死者、行方不明100名を数え、家屋の流失、全壊704戸に及ぶ大災害となつたが、人々はこれを未満水<sup>ひつじ</sup>以来のことという。未満水とは正徳5年乙未6月の大洪水のことを指しているのである。

ここで当地方の水害の歴史をひもといてみると、洪水は即ち天竜水系氾濫の歴史ということができる。古い史料で明らかなのは、天正元年頃からであるが、それ以来今日まで約380年間に約260回の大小洪水水害をみている。

今、古い史料からその主なるものを拾つてみると、

正徳5年乙未6月(1715年)

天竜川古今未曾有の大洪水となり、6月17日より雨降り初め、18日未明時刻より豪雨となり、其音響物妻く轟き臼井川、久米川、留米沢、その他河川一時に出水荒れ初め、堤切込、畑、家屋に切込大騒と相成り、天竜川は段々増水し未之刻には諏訪の湖を見るが如く相成、何百年来の満水とも例へようなく、古今稀有の大満水に候、天竜の奥筋にも人家の損せし村有りとも見え、家屋、酒屋の大桶、家財等流れ通り候、この時今日馳ヶ沢押出の響は富士の焼けた音より大きく候。

この時の被害状況を史料にみると次のとおりである。

飯田藩	
流失田畑	7817石(永流986石)
流失家屋	64戸
半壊家屋	63戸
死	32人
堤防欠壊	2580間
落	9所
井堰欠壊	48所
道崩壊	52町

これによると当時の飯田藩全耕地の $\frac{1}{3}$ 以上が流失したことになる。

山吹藩	
田永流	134石
川路地区	
永流、当流、水押	33町
流失家屋	7戸
堤防流失	374間
道筋破損	5所

等となつている。

また遺跡としては市田の出砂原は未満水の際、大島川の氾濫によるものといわれ、駅前、山三魚店の庭にある直径2間に9尺もある大石もその時流れて来たものといわれている。

市田駅近くの月照庵には、6尺の自然石に「前亡後死三界万霊」正徳5年乙未6月18日云々と記されており、これは当時の犠牲者を供養するため建てられたもので、また飯田天王原の大石も未満水によつて流れて来たもので、昔、この石の近くを通ると小児の泣き声が聞えたという。それはこの石の下に小児が下敷となり死んだため、村人達の供養により泣き声は止んだといわれている。

寛政元年己酉6月18日(1789年)

天竜出水す。川路村大半水中に没す。世人酉満水という。

文政11年戊子5月(1828年)

天竜出水し再び7月1日大満水あり。

安政4年丁巳4月27日(1857年)

大洪水又5月18日大満水にして、村人謂、子年(文政11年)以来の大水也と、8月朔日また大洪水。

慶応元年乙丑5月17日(1865年)

近年稀なる大満水出で、川路村平坦部大半水中に没し中屋、稲葉屋二階上り、筏を出し大事也、相沢東の尼家流失、半壊その他田畑流失、砂入夥數有、是正徳の未満水より150年目にあたる大洪水也と称せらる。

明治15年9月29日(1882年)

雨降り初め豪雨にして10月1日大洪水となり、天竜川濁流により田畑、道路、橋梁流失破損す。

このように天竜水系の洪水は屢々沿岸に大災害をもたらし住民を不安におのかせたが、今回の豪雨はこれをはるかに上廻る規模であり、その被害状況においても比較にならぬ程甚大であつた。

### 3 6月発生 of 梅雨前線集中豪雨の状況

諏訪盆地の水を集めた諏訪湖に源を発する天竜川は、上伊那郡から下伊那郡へ南に流れて、その流域に伊那谷を形成し、西に木曾山脈、東に伊那山脈、そして赤石山脈が天竜川にそつて南北に走っている。下伊那郡内でこれらの山脈から天竜川に流れ込む支流には、西に片桐松川、大島川、野底川、飯田松川、久米川、阿智川、和智野川、早木戸川、東には小渋川、虻川、加々須川、小川川、米川、万古川、遠山川等の中小河川があり、強い雨が降ると風化した土砂と共に、鉄砲水となり、あばれ天竜の名を起す源となつている。

本年は6月に入つてから雨らしい雨は殆んど降らず、水不足が深刻となつていた時でもあり、23日から降り初めた雨は慈雨として喜ばれたのであるが、26日夜、本州南海上にあつた熱帯性低気圧が発達して、台風6号となり、梅雨前線もこの台風に刺戟されて活発となつて、関東東方海上に根を張る高気圧のため殆んど動かず、27日、梅雨前線は下伊那から上伊那に亘り最も活発となり、集中的な豪雨を降らす原因となつた。

このようにして発生した豪雨は27日には、いよいよ激しさを加え、1時間に10耗をこえ、午後になり雨勢は益々強まり1時間に40耗、最もひどいときは10分間で12耗を記録した。27日の10時30分には大雨洪水注意報が出され、17時30分には県の南部と西部に大雨洪水警報が発令された。その頃天竜川は木曾山脈、伊那山脈、赤石山脈から流れ出た水を一気に呑み、高森町市田滝の口では水位3.3米(警戒水位1.8米)、飯田市時又では7米(警戒水位3.3米)と増水し、17時を最後として量水標が流失し、それ以後の観測は不可能となつた。

27日9時から28日9時までの降雨量は325耗に及び、飯田測候所創立以来日雨量として最高を記録し、木曾山脈恵那山では日雨量429耗にも達した。そのため天竜川及びその支流は未曾有の大洪水となり、多数の人命と家財を奪い、各所に崖崩れ、山崩れが続出し、南信一帯は交通、通信とも全く麻痺状態に陥り、下伊那全域に大災害をもたらした。

その災害の主たるものをみるに、飯田市川路地区では飯田線川路駅前附近に27日14時頃から出水が初まり、15時には川路支所から避難命令が出され、17時には駅構内に水が流れ込み、20時には川路支所の床上20糎になり、20時30分には45糎と急速に増水し、23時には1.93米に達して土砂流入は床上30糎となつた。川路駅の調査によれば28日5時最高水位は駅長室床上4.15米となり、これを過去の洪水と比較すると、昭和20年10月には床上20糎、昭和32年6月には床上60糎であり、今回の豪雨が如何にすさまじいかを物語っている。

このため日本3大桑園の1つとして知られていた川路大桑園は平均3米の土砂の下に完全に埋没した。また天下の名勝地天竜峡に架けられている姑射橋附近では20米以上も水位が高まり、その下流のつつじ橋(鉄骨釣橋)は平水面上18米に架設されていたが、水中に没し無惨に破壊された。

飯田市伊賀良地区では27日19時から笠松山(1,271)米が崩落を初め、大きな山津波3回、小さな



# 気 象 状 況

## 降 雨 量

箇所	6月									7月						計
	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	1日	2日	3日	4日	5日	6日		
飯田市	3.8	29	20.5	72.3	325.3	52.5	27.6	32.7	14.1	0.5	2.2	16.5	0.8	-	597.8	
平岡	1	14	40	58	212	96	44	0	7	-	-	-	-	-	472	
恵那山	4	35	30	110	429	135	104	15	26	0	46	64	7	13	1,018	
笹山	3	29	21	41	218	59	33	10	8	10	5	44	1	5	487	
遠山	2	16	34	43	241	144	51	0	0	-	-	-	-	-	531	
旦開	40	欠	74	89	236	97	63	1	12	-	-	-	-	-	61	
清内路	1	36	23	99	267	48	50	24	19	-	-	-	-	-	567	
摺古木山	6	53	32	102	192	57	61	16	9	-	-	-	-	-	528	
平谷	4	24	25	83	185	80	60	18	-	-	-	-	-	-	479	
泰阜	0	2	18	54	213	79	36	2	20	-	-	-	-	-	424	
上程野	1	25	35	49	266	120	80	21	25	-	-	-	-	-	622	
和合	1	19	46	71	261	96	56	0	12	-	-	-	-	-	562	
下久堅	2	24	24	73	298	54	24	22	0	-	-	-	-	-	521	

## 天竜川水位

区 分	飯田市 時又	高森町 竜の口
	警戒水位 4m30	警戒水位 1m80
	m	m
27日午前11時	4. 80	2. 00
〃 正 午	5. 20	2. 20
〃 午後1時	5. 50	2. 40
2時	5. 70	2. 50
3時	6. 30	2. 90
5時	7. 00	3. 30
以下観測不能		

## 風 速

区分 月日	平均	最大	風 向
	m	m	
6月26日	0.3	2.0	西寄り
27日	0.9	3.0	〃
28日	1.5	7.3	南寄り

ものは29日までに30回にも達し、このため人家100戸以上が土砂に埋り、死者は5名を数える惨状であつた。また飯田市の東を流れる野底川は27日22時頃から満水状態となり、28日0時30分頃突然大きな鉄砲水が押し流し瞬時に氾濫欠壊して、上郷村別府地籍から飯田市東中央通り、鼎町西鼎地区に大小の石を交えた土砂を押し出し、2時頃には上流の上郷村下黒田附近でも欠壊、死者7名をみている。

松川町生田地区、豊丘村、喬木村の中小河川も一斉に氾濫欠壊し、耕地、家屋の流失、山林の崩

落となつて人畜の被害も多く、一時は交通通信も完全に杜絶した。

大鹿村大西山の大山津波は29日9時30分頃突然起り、500米巾に40米の高さで押し出し、この量は300万立方米と推定され、このため大鹿村では死者40名、行方不明15名、重軽傷者642名を出す悲惨な結果をみたのである。また南信濃村、上村でも遠山川が氾濫し、各種災害が発生しており、天竜川に注ぐ各中小河川はいずれも氾濫、土砂を夥しく押し出し、沿岸を欠壊、家屋を流し、だんだん畑を流失せしめ、各所に死傷者を出し、天竜本川は豊丘村の伴野堤防が28日欠壊対岸の高森町の有名な宗兵衛堤防も遂に29日欠壊、それぞれ数10ヘクタールの美田は濁水渦巻く河川と化し、更に飯田市松尾地区も弁天橋近くで堤防が欠壊した。

なお阿智川上流の清内路村、智里村でも氾濫による大被害を出し交通杜絶の状態となり、全郡にわたり孤立無援の地帯が数多く発生したのである。

## 4 災害応急対策本部

災害応急対策本部は地方事務所長を本部長とし、所内各課、県出先機関の関係者がそれぞれ配置任務についていたのであるが、設置以来、災害対策指揮、災害情報収集と多忙を極め、本部長室では災害図面に刻々と増大する被害状況を記入しながら、本部長を中心に、孤立地帯への応急物資の輸送の検討、自衛隊の受入体制、災害対策必要人員の割当等、次から次へと問題が続出する中でローソクのあかりを頼りに、夜明け方まで不眠で対策協議の行なわれることも珍しくなかつた。

特に28日からは県災害対策現地本部が設置されたため、本部は一段と多忙を極め、中でもヘリコプターによる空輸については、自衛隊の作戦会議を経て決定される関係上、本部では会議までに物資について正確な資料を提供する必要があると、連日市町村の要望と本部判断による必要輸送物資を算出するため、県現地本部職員を中心に関係者が集まり協議して、当夜の作戦会議に提出し、そこで了承されるのは常に22時前後で、それから本部指示により、商工建築課を中心に物資の集荷に当たったが、地元業者等の協力を得て24時頃から1時頃集荷がなされ、翌朝松川基地から被災地へ空輸されるまで関係職員は休む間もない有様であつた。

また被害状況は刻々判明し、災害救助法の発動、これに伴う応急対策の実施は、広汎な地域におたつたため、厚生関係職員もまた連日連夜奮闘を続けた。その間建設大臣初め、衆参両院、県議会、各種団体等の災害視察、見舞は連日でこの対応、案内等もあり、本部はさながら戦場のような日が続いた。

災害状況等連絡のため本部には松川基地、県災害対策本部、上伊那地方事務所へは直通電話が設置され、大鹿村は警察との話し合いで警察電話が使用できることとなつていたが、これらの電話は殆んど切れている暇もなかつた。

災害状況の収集は急務であり、しかも正確さを要するのであり、電話、ジープ、徒歩等を利用してその収集に努力したが、27日、28日頃はまだ部分的にしか被害状況はつかめず、30日に漸くその概要が判明した。これらの状況はその都度県本部へ通報すると共に現地対策の協議がなされた。

一方大鹿村の悲惨な状況が入報したため、本部では大鹿村に出張所を7月4日から設置することに決定した。大鹿村出張所は主として、

- (1) 災害救助法発動後における炊出し等の指導
- (2) 災害後の生活保護の申請等の生活相談
- (3) 災害後の食糧等の需給調整
- (4) 伝染病発生防止のための防疫の指導連絡および医療班等の連絡調整
- (5) その他本部と大鹿村災害対策本部との連絡及び援護物資配分指導等の業務を取扱つた。

大鹿村役場は未曾有の大災害のため当初は何から手をつけてよいかも分らない状態であつたが、

人命救助、避難所、炊出し等順次軌道にのり、出張所もこれらの相談、指導に当つたので救助業務の円滑な遂行と人心安定のため大きな働きをした。

こうして本部は昼と夜の区別もないようなことで、28、29日頃になると本部づめの職員はもち論、各部署の職員も極度に疲労の色がみえて来たので、本部長指示により、29日から職員に対するビタミン注射を実施すると共に、健康に特別に注意するよう達せられた。

県現地本部は、本部要員が自衛隊との接渉、或いは基本的救助計画に従事した外、各事業部門等に配置された職員は約100名で、それぞれ耕地、林務、建築等各部署においてこれまた日夜の別なく災害業務に従事した。



## 5 自衛隊の活動

前述のように大規模な災害により、道路河川の欠壊に伴う交通杜絶、各村落等の孤立のため、被災地への食糧輸送、その他必要物資の補給など、緊急に措置すべきことが山積しており、自衛隊の力が是非必要であつたため、県は6月27日派遣要請をし、28日には新町の13連隊3大



自衛隊の活動

隊358名、松本の316地区施設隊29名が入郡し、29日には1,323名、30日には2,286名と7月16日までに実に延36,356人が災害救助あるいは応急復旧に従事し、復興の足掛りをつけ、人心もこの自衛隊の活躍によつて落付きをとりもどし、地元被災者の心からの感謝をうけた。特にヘリコプターの活躍はめざましく、大鹿村外交通杜絶の地へ食糧品、薬品等の輸送、また重傷者の輸送により多くの人命が危機から脱したのである。

ここで災害中における自衛隊の活動をふり返つてみると、

7月3日現在、災害救援の原動力として東部方面總監部管下自衛隊約2,800人とヘリコプター15機が出動して不眠不休の活動を続けており、松川町松川中学校に前線基地を置く自衛隊は、ヘリコプター隊、施設隊、通信隊などあらゆる機動力を動員して救援物資の投下、道路改修、負傷者救出などに全力をつくし、ヘリコプターも休む間もなく救援物資をつぎつぎと積み込んで被災地へ飛び立つ。被災地で孤立した家屋へ乾パンを落下したり、急を要する負傷者も帰路に輸送し、あるいは大鹿村では藪の搬出にも大きな力を発揮するなど、往復共一秒を惜しむ活躍が続けられた。施設隊は行方不明者の発掘、道路改修、応急橋の架設工事等、泥まみれになり危険を侵しての作業を続行した。また28日には大鹿村から数多くの負傷者が出たため食糧品よりもまず医療品との訴えがあり、この血の出るような叫びを聞いた自衛隊では、脇本三尉ら8人が肩に喰込む100疋の医療品

を背負いまだ濁流の音が無気味にとどろく大鹿村へ7時間もの間歩き続けて、落合部落へたどりつき、待ちわびる被災負傷者に施療をなし得たという場面もあつた。この道のりは荷物なしで10時間を要するもので、被災者らは涙を流して喜び合つた。

また上水道が殆んど破壊され使用不能となつたため、給水班100人が各所へ飲料水を給水してまわり、なお数日も泥水の中で復興作業に従事している被災者たちに風呂を提供するなど、日常生活確保のため不休の作業を続けたのである。

自衛隊の活動状況については別表のとおりであり、なお松川町自衛隊基地の様相を同基地の輸送主任であつた藤田税務課長の手記(注18ページ~20ページ)によつてみると、次のとおりである。



自衛隊の活動





(単位 kg)

## ヘリコプター輸送実績 (町村別)

市町村名	人	米	味しょうゆ 塩	野菜	乾パン	麦類	その他 の食糧	衣類	救 援 物 資	日用品	薬品	CAC	器材	建設 資材	復旧 資材	石油	その他	合計
川南		1,800				1,200				1,000							2,000	6,000
阿南										31								31
清内路	1	5,340			115		177	309	200	345	20	100						6,606
阿智		600	170	40														810
天竜			122					286				150						558
泉										83								83
大鹿	372	20,320	2,452	11,180	345	1,335	2,436	963	4,974	829	3,401	383	3,515	12,093	4,467	4,387	849	73,929
南信濃	1	7,520	30		138			413	446	303	60			840	4,282		580	6,222
上郡								181	90	110	326						600	9,697
計	374	35,580	2,774	11,220	598	2,535	2,613	2,152	5,710	2,701	3,807	633	3,515	12,933	8,749	4,387	4,029	103,936
飯田		180																180
飯田計	374	35,760	2,774	11,220	598	2,535	2,613	2,152	5,710	2,701	3,807	633	3,515	12,933	8,749	4,387	4,029	104,116
上伊那		8,772	1,649	850	369	40		2,442	1,817	800	159		8		1,179		300	18,385
中伊那																		
上伊那計	374	44,532	4,423	12,070	967	2,575	2,613	4,594	7,527	3,501	3,966	633	3,523	12,933	9,928	4,387	4,329	122,501

## 松川ヘリポートにおける救助物資輸送の状況

6月下旬から降り初めた梅雨型の雨は26、27日本格的豪雨となり、各地に大災害をもたらしたが、中でも孤立した大鹿村の救助はその悲惨な状況から一刻の猶予もできない状態にあつた。自衛隊はこれらの状況判断からして、松川町に本部を設置、飯田市を中心に活動を開始したのが28日である。孤立化した被災地にヘリコプターによる物資輸送の用務は最も緊急を要し、穀類をはじめとする各種食糧から、土木工用資材に至るまで毎夜遅くまで翌日の輸送計画が検討され、早朝から炎天下のヘリポートでの作業に真黒に日焼し、数機の中断なき飛翔と取組んで、被災者のため一物なりともの精神に徹して活躍したのである。幸いヘリコプター隊員と顔なじみになるにつれ、呼吸もピッタリしてきたのと多少の無理も隊員の方で受入れてくれることが、ヘリコプター活動機数延560機によつて、実に120屯余の救助物資と374人の災害に必要な人員輸送の一部を補つていたことも見逃せない事実である。

7月7日所長命によつて私も松川基地災害対策本部連絡所へ1週間、物資輸送係主任を命ぜられて、課内用務を各係長に託して、翌8日任務に着いたのであるが、基地には災害発生以来今日まで全く不眠不休で陳頭指揮をとられた佐々木出納次長を初め、木村砂防課長、地方課川合係長など、県庁から御苦労願つた係員の方々が、ようやくわれわれと交替帰庁されるため、後事は木村砂防課長が総指揮者に残り、この日川合係長から事務引継ぎを受けたのであるが、この最中にも物資関係、人員の輸送などの用務が輻輳し、てんやわんやで、係長もあちらこちらと自衛隊接渉用務で、階上の自衛隊本部へ行かれたり、ヘリポートへ出掛けられたり多忙を極めている。そんな留守中婦人の来訪を受け、大鹿村北入に姉がいて気がかりだから、ヘリコプターに塔乗させて欲しいとの要望を受け困つていると、そこへ帰つてきた、係長は馴れたもので、初めて聞く私達には意地悪く思える程の応答をしていたので、後から聞くと既に1回行つてきている婦人であり、ああして哀願のようであるがあの婦人は、他の用務の便乗だと聞かされ、成程この種の塔乗者選定は警戒しなければと感じ入つた。なぜならヘリコプター1機の運搬量は200疋であつて、人間1人が50疋と換算され、それだけ物資は減じられるからである。必要上止むを得ない人より乗せられないことも充分理解することができた。

この日は一応の引継を受けて自衛隊本部の総指揮者、副総監多田潔将補はじめ、ヘリコプター指揮の大西一佐(第3部長)、そのほか関係する隊員の方々、また松川町当局などにあいさつを済ませたり、一日中多忙の中に過ぎて宿に入つたのは24時頃であつた。

ここで私達の仕事のあらましを記すと、

- (1) 本部(地方事務所)との連絡事務
- (2) 物資の輸送計画書の作成
- (3) ヘリコプター塔乗者の選定
- (4) 物資の確認と検収保管



給水を受ける被災者—飯田市—

(5) 輸送実績報告書の作成

(6) 搭載その他諸記録

(7) 物資、人員輸送に対する自衛隊との接渉

などである。この時の状況を日記により記述してみよう。

7月8日

着任日

7月9日

交替要員として本庁から、村上考査相談員ほか7名配置され着任、事務分担を定める手筈を打合せ。予定の輸送を終つて夕食後、明日の輸送計画と塔乗者の計画書を作り、大西部長と接渉し決定する。輸送標準は松川基地4屯、城下基地2屯である。佐々木出納次長ほか前任者帰庁す。

大西部長から話あり、このところ午後から大鹿上空は悪気流のため午前中に輸送が完了するようになりたい、そのため輸送開始を7時にするからそのよう手配されたい旨申出があり、輸送係員にこの旨打合せ、前日中に物資集積を終り、6時30分集合に切替えることにする。すべての計画を終つてから全員集合を求め、事務分掌と今後の打合会を行なう。帰宿24時すぎ。

7月10日

本日初めて事務らしき体勢に入る。予定どおり計画以上の輸送を終つたのが昼少しすぎ。ヘリコプター隊長芝田一佐来り、本日任務を終り一部帰隊する旨のあいさつとともに、ヘリ隊員一同として災害見舞5千円を受取る。

大西部長と話し合つた結果明11日から機数も、他の輸送が終るため、大鹿村一本となる関係上

標準を2屯に押えるよう要請あり、これに対し接渉の結果、朝の能率をあげて予定数量以外にできうる限り送つてもらうことに話合いがつく、そのため2屯以外の物資は予備物資として現場に常時用意し、この消化に一層の努力を払うこととなる。このため輸送を終了してから、早速明11日からの計画について打合せた結果11日から15日に至る間の予定計画を樹てることにし、本部に連絡緊急度の高い物資と量を知らせるよう依頼す。本部からの回答により、この指示に従い計画をたて21時頃から接渉に入る。

○全計画承認を受けホットする。

本日派遣隊総指揮多田副總監帰隊し、隊長は松本第13普通科連隊長下田一佐となる。

7月11日

自衛隊の全様態も解り各部隊の係との接渉も順調となる。しかし6時集合、物資の仕分け、積み込み等または種々その接渉に早朝から、夜遅くまで業務は続き、各員疲労が激しい。

7月12日

馴れてきたのと、15日までの輸送計画を一応承認されているので、思いのほか気分的に楽になる。また、ヘリの協力は(予定以外の物資について)ことのほか順調で現場の予備物資は順次消化されて行く、この日あたりから各部隊引揚げの話が本格化す。解散式を14日11時に挙行と決定、本部および地方課等に連絡する。

7月13日

ヘリコプター隊の帰隊が15日と決定。このところ予定2屯をはるかに上廻る数量の輸送となっている。感謝式打合せのため本部から根岸係長ほか2名の係員来所、現地視察をする。

7月14日

5時30分頃宿直員から電話あり、自衛隊からの申出で本日は6時から輸送開始をしたいから用意してほしいとの連絡あり、直ちに要員に連絡急拠出動する。ヘリ隊は朝食前にすでに2屯近くの輸送を終つた。最終予定量はもち論のこと、予定外救援物資も時間の許す限り、相当量輸送して全部終了する。この隊員の協力には頭のさがる思いがする。こうして感謝式挙行前までに約5屯の物資が送られた。

10時30分頃唐沢社会部長、西沢係長、上下伊那の地元各所、市町村関係者集合、11時30分頃から感謝式挙行、各隊それぞれ整列緊張の中に今時災害に際し献身的救助に当つたことに対し謝辞と感謝状の授与が行われた。式終了後部隊代表と県、地元代表者等による送別パーティが行われた。ヘリコプター輸送も本日をもつて無事終了。一週間にわたる松川基地の任務も大過なく終り、本庁からの応援要員もそれぞれの時間で帰庁する。なおヘリポートとなつた学校々庭等整備のため、自衛隊施設隊の10数名が残るので、これが終るまでの上下伊那連絡要員を残して5時下伊那地方事務所へ帰着した。以上



災害対策本部松川地区物資輸送関係

職務分担表

本部		自衛隊	
高尾囑託		派遣隊長	多田陸将補
総指揮	木村砂防課長	高級幕僚	大西一佐
土木関係主任	増田係長	第一ヘリコプター隊	芝田一佐
物資輸送関係主任	藤田税務課長	第一施設大隊長	高村二佐
		建設大隊長	西村二佐

業務分担表

区分	職務名	担当者	職務内容
物資輸送関係	主任	藤田課長	総括、便乗者選定、接渉
	庶務係	○村上考査相談員 清水主事 浜崎主事 八木主事	本部連絡、命令受領、物資配分計画、報告書作成 その他一般
	ヘリポート係	○今村主事 宮坂主事 山崎主事 松下主事 小松主事 浅川主事 丸山主事 大川主事 西村主事 小林主事 林技師	自衛隊との現地接渉、ヘリポート総括、報告書の作成 物資確認 登載物記録整理
	物資検収係	○浜崎主事 川上主事	物資の検収、保管
土木関係	主任	増田係長	総括
	資材係	○福沢主事 堀内主事 佐々木主事	自衛隊との資材受渡、検収、資材調査
	連絡係	○坂井係長 坂口技師 武田技師	自衛隊との接渉、連絡、警察との連絡、道路補佐

6 日赤救護班、現地医療班の活動

物的災害は200億をこえ、一方人的被害も極めて多く、死亡98名、行方不明2名、重傷者103名、軽傷者1,012名を数えた。人命救助こそ最も緊急を要するもので、日赤救護班は豊科赤十字病院、諏訪赤十字病院、長野赤十字病院、下伊那赤十字病院の6月28日出動を皮切りに17救護班が到着し、被災各町村へ派遣され、死体の措置及び重軽傷者の施療、看護にあたり、その患者取扱数は3,997名に及び多くの人命が救助された。

救護班は17班で医師20名、看護婦40名、その他18名、計78名から成っており、悪路の中をジープあるいは徒歩で現地に赴き寝食を忘れ、全く献身的に重軽傷者の看護等にあたり、地元民の心からの感謝をうけた。

団体的被災の最も甚大であつた大鹿村へは6月28日、自衛隊ヘリコプターにより到着することができたが、一方医師以下3名の現地医療班は6月28日から交通杜絶の中を徒歩で大鹿村へ向い、まだ降り続く雨とたたかいながら所々欠壊した危険な道を歩き、到着後直ちに医療運動を行なうなど決死の活躍が続けられた。

現地医療班は35班から成り、3,015名の患者を取扱つた。これらの状況は次表のとおりである。なおここに阿南病院看護婦安藤正子さんの手記を紹介すると、

恐ろしい傷あと

阿南病院 安藤正子

「大鹿村がやられた」この言葉を耳にしてまもなく本部命令によつて阿南救護班を作る事になつた。医師3名、看護婦4名、インスタントに出来上つた全員が、まるで戦地へでも出かける人の様な見送りを受けた。よしやるぞ、どんな事でもやれば出来るんだから、と心に強く誓つた時、足の先から頭の頂上まで電気が流れた様にぶるぶるした。

10時37分、我々は出発した。元気百倍、大鹿村とはどんな所なんだろう、どれ位どんな患者さんがいるのだろう。そんな事を考え話している皆の顔が目が異様にかがやいて見える。午後2時下伊那地方事務所へつく。自動車、人で混雑している。いろいろな、うわさが飛ぶ。ヘリコプターが長姫高校におりる事になつたため全員待機した。

日赤の人達もいた。ヘリコプターは中々やつて来ない。ブーンと音がするたびに、ドキドキと心臓がなる。だんだん不安な気持ちにおそわれて来る。あ、来た。だが校庭がせまくて降りられないとの事で飯田東中学校まで行つた。

ヘリコプターはすでに二機おりていた。日赤の人を乗せ飛び立つたあと浜井場に降りるとの事で

我々はそこで再び待機した。長い時間待った。再び飛び立つた時、重量の具合で不時着となり、今日はヘリコプターは中止となり、地方事務所にもどつた。

話し合いの結果生田地区が大変ひどくやられたとの事で、午後7時頃我々は生田地区へ向う。まっ暗な細い道を何台もの自動車とすれちがいがながらゆつくりと進んだ。

そうとうな時がたつて、やつと松川町役場についた。自衛隊、対策本部の人々でごつたがえしている。だがこの地区の救護はすでに終つていた。

7月1日再び地方事務所の門をくぐつた。今度こそ大鹿へ行くのだ。そして大鹿の人々を助けるのだ。そんな気持ちが働いてか勇気が出た。外は雨が降っている。いつでも出掛けられる身じたくをしてヘリコプターを待った。戦地の引揚げ者の様に荷物を両手に持ち、土工の様な姿で地方事務所の階段を何十回往復したことか。

午後4時やつとヘリコプターに乗りこんだ。いよいよ行く事になつた。離陸してから、着陸する迄何分かかったことか。やがておそろしく荒れはてた河原におろされた。そこには豪雨をのがれて咲いている一輪の草花すら見あたらない。

ここには病院はないとの事で、再びヘリコプターにのり大鹿病院に向う。日赤の医師、看護婦はいるが、阿南の人達——我々の仲間が見えない。安心したのも束の間、何か知ら悲しくなつてしまつた。阿南救護班を作るため鹿塩に行つた。

人々は神社に荷物を運び避難している。山や川は、家々をつぶしこんなに多くの人々を苦しめたことを全く知らないかの様に、荒れはてた地を流れている。暖かい夕食をいただき、霧につつまれた山々を見ると幼い頃のキャンプが思い出された。

あんなにあばれた山々も今日は静かに夜が明けた。

北川、北入及び奥沢方面に下痢患者多数発生という知らせを受けた。いよいよ活躍する時が来た。鹿塩より落合大鹿病院まで徒歩で約40分。途中、がけくずれのため山を上つたり下つたり、荷物を背おつて太陽のカンカンと照りつける中を汗びつしよりになつて無言である。午後1時30分下痢止め、その他外科用具少々を持ちヘリコプターにのつて、北入にむかう。同じ様な山の上を30分位とんで人もいない、家も見えない河原におろされ一同途方にくれた。だが村の人が来てくれ、その人たちにせおわれて、川をわたつた。下痢患者、その他の患者は全くといってよい位見あたらず皆元気であつた。だが恐怖におびえてた顔はどこへ行つても同じだつた。

ひどい下痢患者がいなくて安心したと同時に力がぬけてガツカリしてしまつた。十数名の患者を診察して今日1日は暮れて行つた。

北川地区でどうしてもという事で朝7時北川へむかう。消防の人が荷物を背おつて道を案内してくれる。がけくずれで道という道は、つぶされているため山を上つたり下つたり時には、くずれたがけを、一足でもあやまれば命がないだろうと思われる様な道を、谷を歩く。ただ歩く。今はこれだけが私の頭の運動源であるかの様に……。河原の石がごろごろしている所を一足一足ふみしめ

て歩いた。

3か所に診察の場をもうけ、そこで10~15名位の患者を診察した。ほとんどが腹痛、麻疹、その他以前より持つていた病気が数日の疲れのため出たのであろう。

そんな人が大部分で、ものすごい伝染病の蔓延で手もつけられないだろうと心配した事なんておかしな位であつた。これ位ですんで、ほんとに一安心といつた所である。

ちゃんとした機械道具のもとで診察介助するのと異つてなかなかむづかしい。

1時30分ヘリコプターで大鹿病院に帰る。今迄の患者さんのカルテ作りと、薬作りを初めた。最少限の薬で最高の効力を発揮させようとする先生。少い薬で多くの人々をどうにかして上げたいと思う気持ち……。

6時起床。病院掃除から始まる。7時検温。初めて入院患者で大きな、けがをした人に出会つた。白い包帯が、赤いマーキエロが、いたいたしく感じられる。病室、包交といつても何十人もの患者をしかも何か所も、少いセツシで、ガーゼでやらなくてはならないから大変だ。消毒、完全滅菌なんて考えにはあるが、なかなかどうして出来よう。傷は全部といつてよい位化膿し、悪臭をただよわせて目もあてられないほどだ。傷のため動く事も出来ず、ウンウンうなつて居る患者さんでも災害当時の恐しさを思い出して、窓から飛びおりようしたり、聞く人、出会う人、すべてが恐しかつた。こわかつた。家が流された。そんな話をさびしそりに、ボソボソと語ってくれる人もあつた。6畳に3人、4人とひしめき合つて悪臭をはなちながら、うなつて寝ている人、1人1人を診察し終つた時には、先生も汗びつしよりでさすがに疲れた様子であつた。ほつとためいきをついた時には昼食になつてた。

1時半大鹿病院の皆さんと、記念撮影をしてこの恐い地からのがれる時が来た。

何も出来ない私ではあつたが、この人々を残して行つてしまうことは、何だか心残りがするのだつた。この山よ、川よ、二度とこんな事をおこさないで、そのままの自然な姿でいておくれと願わずにはいられない気持ちであつた。

ブーンというヘリコプターの音と共に大鹿村は小さく、小さくなつて行つた。



区分 班名	編成		出勤 月日	帰着 月日	取扱患 者数	派遣病院名	派遣先	現地医療班				備考	
	医師	看護その他						入院	通院	医療	死体		計
第1救護班	1	4	6.28	7.3	146	豊科赤十字病院	開田村、飯田市、大鹿村	5	51	125	132	9	317
第2	1	3	6.28	7.1	57	諏訪	上伊那郡中川村	16	633	337	997	50	2,017
第3	1	5	6.28	7.3	375	長野	豊丘村、大鹿村、高森町、高木村	10	366	63	-	-	429
第4	1	1	6.28	6.28	150	下伊那	群町、飯田市、川路村	1	119	-	-	-	119
第5	1	1	6.29	7.1	175	下伊那	群町、飯田市、川路村	3	53	128	16	-	192
第6	2	1	6.30	7.1	325	下伊那	群町、大鹿村	35	1,222	648	1,145	59	3,074
第7	1	1	6.30	6.30	415	下伊那	群町、大鹿村						
第8	1	2	6.30	6.30	154	諏訪	諏訪市周辺						
第9	1	2	7.1	7.1	82	諏訪	飯田市、大鹿村						
第10	1	3	6.30	7.5	261	飯山	飯田市、大鹿村						
第11	1	2	7.1	7.6	179	長野	松川村、生田						
第12	1	3	7.1	7.6	374	長野	飯田市、川路						
第13	1	2	7.5	7.9	117	長野	飯田市、川路						
第14	1	3	7.5	7.9	158	長野	飯田市、川路						
第15	1	2	7.9	7.13	100	豊科	飯田市、川路						
第16	1	1	7.13	7.16	306	下伊那	飯田市、川路						
第17	3	4	7.4	7.7	603	松本(信大)	飯田市、川路						
計	20	40	-	-	3,977	-	-						

1. 現地医療班の編成下記のとおり  
 医師 1 計 3  
 看護婦 2  
 但し状況により看護助手又は補助員を増加することあり

摘要

## 7 災害救助対策

### (1) 被害状況の報告

梅雨前線による豪雨は下伊那地方に次々と大きな被害をもたらし、地方事務所に設置された対策本部の調査係では1時間毎に各町村から被害報告を受けるのであるが、刻一刻と増大受信していた被害報告も、遂に電話不通町村が続出する有様で26~27日にかけて早くも南信濃村、上村、根羽村、大鹿村、長野市は連絡不通となつた。被害状況は迅速かつ正確を必要とされるので、警察電話での連絡、また福祉事務所職員等が現地へとんだり、マイクロウェブを使用するなどあらゆる手段を講じて被害の収集通報にあたり、それにより次々と災害救助法適用基準に達する被害の実態をは握した。

### (2) 災害救助法の発動

降り続く豪雨は止むことを知らず、次々と被害は増大し、6月28日未明飯田市をはじめ11町村に次のように災害救助法を発動した。

#### 災害救助法法令市町村

飯田市	6月28日	1時30分
竜江村	〃	2時10分
高森町	〃	7時10分
豊丘村	〃	8時10分
上郷村	〃	8時10分
松川町	〃	9時30分
群町	〃	17時00分
清内路村	〃	18時20分
大鹿村	〃	23時00分
喬木村	6月29日	13時30分
南信濃村	〃	13時30分
阿智村	〃	15時00分

### (3) 災害救助に要する期間

災害救助法が発動されると当然救助の期間が限定される。従つて救助法による期間が適用されることになり、適用町村飯田市、群町外10町村は当然のこと、適用外町村でも災害救助法に準じ

て救助（県単）を実施することになった。

また法に基づく経費等も必要となるので災害事務が一刻も早くできて、救助活動ができるよう別表「災害救助法による救助について」を作成し、各町村災害主任者の合同打合せ会議を開き迅速的確な災害救助体制に入るよう協議した。

#### (4) 続出する被災者の応急救助

下伊那災害救助対策本部は27日から救助活動を開始し、災害救助法発動と共に一層の緊張を感ずし本部長は町村長と一体となり、県の応援を得てその指揮に当たった。

まず避難所の設置である。各町村の被害者は町村長の指導で一時的に学校、公会堂、神社、公民館、旅館等安全な場所に收容した。下伊那災害救助対策本部の各町村の避難状況は次のとおりである。

飯田市	40か所	鼎町	3か所	松川町	10か所
高森町	15ヶ	上郷村	9ヶ	清内路村	2ヶ
喬木村	2ヶ	大鹿村	6ヶ	南信濃村	2ヶ
天竜村	1ヶ	泰阜村	4ヶ	竜江村	2ヶ
上村	3ヶ	豊丘村	6ヶ	計	105か所

多数設置された避難所へ收容された被災者は、どの位あつたかをみるに、

飯田市	4,998人	鼎町	233人	松川町	500人
高森町	787人	上郷村	800人	清内路村	74人
天竜村	29人	泰阜村	101人	竜江村	28人
喬木村	43人	豊丘村	860人	大鹿村	760人
上村	114人	計	9,327人		

この避難者中には家屋を全壊、流失された気の毒な被災者の方々が数多く実に悲惨な状況であつた。非常災害の発生によつて食糧の配給、販売機構は一時的に麻痺混乱し、あるいは住家の被害等により自宅炊飯ができず、日常の食事に支障を来たす被災者が各地に続出し、郡下約2,300人を数えるようになった。ここで下伊那水害対策本部の指揮により町村長の協力を得て炊出を実施した。それに婦人会等各団体の方々の活動は実に涙ぐましいものがあつた。

炊出し実施箇所および実人員は、次のとおりである。

飯田市	40か所	4,998人	鼎町	3か所	233人
松川町	10ヶ	500人	高森町	15ヶ	787人
上郷村	9ヶ	800人	清内路村	2ヶ	74人
天竜村	1ヶ	29人	泰阜村	4ヶ	101人
竜江村	2ヶ	28人	喬木村	2ヶ	43人
豊丘村	6ヶ	860人	大鹿村	7ヶ	760人
上村	3ヶ	114人	南信濃村	2ヶ	100人

計 1市13町村 106か所 9,427人

なお余りにも被害が大きかつたので、法に定められた救助期間では救助の万全を期することができない町村もあり、対策本部としては県と連絡をとり、法が認める範囲内で期間の延長をした。

従つて、避難所、炊出し、被服寝具、死体捜索、障害物除却、死体処理、埋葬等の実施は別表「避難所、炊出し実施状況」のとおりとなつている。

#### (5) 応急仮設住宅の建設と応急修理

殊に人的被害、住家の被害の大きかつた大鹿村をはじめ、高森町、松川町等は鉄砲水、山崩れにより家屋の全壊流失、半壊はひどく、その数は市を含めて全壊439戸、流失265戸、半壊520戸という莫大な数となつた。災害のため住家を失い、自力では住宅を確保することができない者に対し、対策本部では救助法の適用町村には法の基準により、また適用町村以外の町村も県と連絡をとり、県単事業として法に準じてそれに応急仮設住宅を建設し、一時的にも居住の安定を図ることとし、また半壊した家屋の補修もすることとなつた。応急仮設住宅の竣工は救助法における救助期間の延長もあり、8月7日までにそれぞれ完成をみたのである。また、建築資材の入手困難な請負業者に対して、資材の供給を容易にするため、国有林の払下げ材を使用する等関係者の協力を得て、被災者の一部はこの応急仮設住宅に落付いた。

#### (6) 災害救助物資の給与

救助法が適用されると被害町村ごとに被災者に、法の基準による救助物資を一刻も早く給与しなければならない。係員は28日被害地に迅速な輸送ができるよう、商工建築課と協力して救助物資購入計画を立て、飯田市の商店から毛布、シャツ、ほか寝具、日用品等を調達し、町村ごと配分計画により、29日被害町村に向つて一斉にヘリコプター輸送を開始した。特に山間部の救助には一刻も早いことが尊ばれるので、購入物資の一部を現地町村に委せることになつた。



被災状況調査

(昭和36年8月)

市町村名	人的被害			住家			被浸			被害			非住家の被害		
	被災者総数	死亡	負傷	全壊	流失	半壊	床上		床下		合計				
							戸数	世帯	戸数	世帯		戸数		世帯	
○ 川	7,541	2	1	5	2	6	56	58	244	1,500	1,570	7,067	1,607	1,685	7,536
○ 松	5,603	7	6	49	29	113	6	6	29	989	1,034	5,159	1,077	1,122	5,554
○ 高	2,473	10	17	28	42	202	97	97	475	360	1,440	565	565	2,445	2,445
○ 阿	1,209	-	-	5	-	-	2	2	8	-	-	5	5	19	19
○ 上	1,178	1	3	19	26	131	80	81	400	141	150	601	266	279	1,204
○ 阿	969	2	1	5	6	22	23	23	116	120	120	900	176	177	1,159
○ 浪	555	-	-	12	4	13	83	83	349	130	130	530	237	237	964
○ 平	228	-	-	3	2	4	3	3	11	50	125	200	130	130	555
○ 根	35	-	-	1	1	15	3	3	5	5	5	20	55	55	228
○ 下	138	-	-	1	-	-	6	6	35	20	20	81	32	32	138
○ 天	42	-	-	1	-	-	1	1	7	7	15	42	15	15	42
○ 泉	42	-	-	3	-	-	6	6	11	7	7	32	8	8	39
○ 千	159	2	2	5	5	19	47	47	42	9	9	43	30	35	157
○ 江	1,227	1	-	1	-	-	98	98	431	155	155	698	275	275	1,226
○ 上	194	-	-	4	-	-	5	5	19	33	33	160	42	42	194
○ 喬	2,054	2	3	8	5	25	45	45	223	300	300	1,650	381	381	2,046
○ 豊	2,432	2	4	24	25	115	110	115	501	310	320	1,600	492	507	2,408
○ 大	2,808	55	42	697	51	163	47	52	234	297	301	1,220	506	522	2,111
○ 上	46	-	-	7	-	-	1	1	1	4	4	17	9	9	39
○ 南	651	-	-	13	13	32	54	54	224	71	71	332	142	142	638
○ 郡	29,616	82	2	866	203	860	719	737	3,337	4,611	4,779	22,336	6,059	6,232	28,750
○ 飯	26,362	16	19	349	62	254	399	418	1,813	2,227	5,345	21,580	6,151	6,357	26,013
○ 合	55,978	98	2	1,021	265	1,114	520	547	2,466	1,181	1,555	10,124	12,210	12,589	54,763

災害救助法による救助について

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28										
1 避難所 (人夫負 消耗機材建物使用謝礼 1H1人450円) 以内																																						
2 炊出給与 (り災者に対し1人1H70円以内)																																						
3 食品給与 (縁故先避難の場合 現物で70円以内)																																						
4 飲料水供給 (機具借上料人夫負)																																						
5 被服等支給 (床上浸水までに生活必需品)																																						
6 医療 (実費)																																						
7 助産 (慣行料金8割以内)																																						
8 教科書																																						
9 学用品 (全 襲 小学 1人 210円 中学 1人 360円 半襲床 小学 1人 70円 中学 1人 120円)																																						
10 埋葬 (大人(12才以上)1人2,200円 小人1人1,800円)																																						
11 救出 (機具借上実費)																																						
12 捜索 (人夫負輸送費 燃料費 借上料の実費)																																						
13 死体死埋 (洗浄 縫合せ 消毒等 1体300円 一時保存=建物利用は実費 野外利用の場合 1坪5,000円)																																						
14 障害物除去 (半襲床上浸水戸数の3%以内 機器具借上 料および人夫負 1戸当り5,000円以内)																																						
15 応急仮設住宅 (全襲流失戸数の3割以内 坪当り20,000× 5坪=100,000円以内)																																						
16 住宅応急修理 (半襲戸数の3割以内 1戸当り20,000円以内)																																						
輸送費																																						
人夫負																																						
当該救助の実施される期間																																						
り災者の避難 救出 医療 助産 救助 飲料水 (の供給 救済用物資)																																						
全 襲——住家の床面積の7割以上流失し、または以下でも住家とならないもの。																																						
半 襲—— 2割以上7割未満の修理で住家となるもの。																																						
床上浸水——上記以外で浸水が床上に達した程度のもの。																																						

備考

- 1 期間延長の必要がある場合においては、期限の前々日までに県(下伊那地方事務所)へ連絡のこと。
- 2 3割をこえて建築または修理を要する場合は、特別基準の設定について速かに県(地方事務所)へ連絡のこと。

災害による応急仮設住宅応急修理の実施状況

	応急仮設住宅建設戸数	応急修理実施戸数	備考
○ 県	-	5	
○ 松川	20	-	
○ 高森	19	17	
○ 阿南	-	-	
○ 上郷	8	5	
○ 阿智	-	-	
○ 清内	5	5	
○ 浪台	6	1	
○ 平谷	1	-	
○ 根羽	-	-	
○ 下条	1	-	
○ 売木	-	-	
○ 天竜	-	-	
○ 泰阜	4	7	
○ 千代	-	-	
○ 竜江	4	8	
○ 上久堅	-	-	
○ 喬木	8	3	
○ 豊丘	10	12	
○ 大鹿	70	25	
○ 上	-	-	
○ 南信濃	5	-	
○ 計	161	88	
○ 飯田市	80	73	
○ 総計	241	161	

○印は災害救助法適用市町村である。

避難所、炊出し実施状況

	避難所					場	所	
	実 施		期 間 延 長		場			所
	箇所	期間	人員	箇所				
○ 県	2 1	4日 10日	153 80	1 3	3日	80	切石集会所、切石作業所、大竜社	
○ 松川	10	10日	500	6	2日	402	福与公民館、円満場、下峠集会所、峠公会堂、中山旧学校、柄山	
○ 高森	9 6	5日 9日	426 361	-	-	-	白百合保育園、田島製菓、畜産センター、追分集会所、下平集会 (56) (62) (65) (58) (61)	
○ 阿南	-	-	-	-	-	-		
○ 上郷	6 3	2日 10日	700 100	-	-	-	各地公会堂、図書館	
○ 清内	2	4日	74	-	-	-	西南寺 (40)、念仏堂 (30)	
○ 阿智	-	-	-	-	-	-		
○ 浪台	-	-	-	-	-	-		
○ 平谷	-	-	-	-	-	-		
○ 根羽	-	-	-	-	-	-		
○ 下条	-	-	-	-	-	-		
○ 売木	-	-	-	-	-	-		
○ 天竜	1	3日	29	-	-	-		
○ 泰阜	4	10日	101	-	-	-		
○ 千代	-	-	-	-	-	-		
○ 竜江	2	5日	28	-	-	-		
○ 上久堅	-	-	-	-	-	-		
○ 喬木	1 1	6日 10日	22 21	1	5日	21	阿島公民館、阿島共同作業所	
○ 豊丘	1 5	3日 10日	250 610	-	-	-		
○ 大鹿	6	10日	760	6	10日	760	役場、松平神社、香松寺、旧大河小学校、市場神社、塩原公会堂 (80) (70) (50) (130) (140) (30)	
○ 上	1 2	4日 3日	31 83	-	-	-		
○ 南信濃	2	3日	-	-	-	-	大町公会堂、名古屋公会堂	
○ 飯田市	40	10日	4,998	10	8日	1,442	松尾清水集会所、松尾明集会所、竜丘支所、川路第1公民館 川路第4.7.5.8公民館、伊賀良北方飼育所、羽場中央公民館	



救 助 物 資 配

	炊 出 し					期 間 延 長 調							
	実 施			期 間 延 長		被 服 寝 具	死 体 捜 索			障 害 物 除 去		死 体 処 理 延 長 期	埋 葬 延 長 期
	箇 所	期 間	人 員	箇 所	期 間		人 員	対 象 人 員	夫 婦 延 長 期	対 象 戸 数	延 長 期		
集会所 所、山吹支所外 (59)	2 1	4 6	153 80	1 6	6 日	80	7月15日	-	-	-	37月13日	-	-
	10	6	500	6	6	500	全	-	-	-	-	-	-
	9 6	5 6	426 361	6	6	361	町	2	107月17日	-	-	7月17日	7月17日
	-	-	-	-	-	-	村	-	-	-	-	-	-
	6 3	2 6	700 100	2	6	60	-	-	-	-	-	-	-
	2	4	74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1	3	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4	6	101	2	4	80	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2	6	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2	6	43	1	6	21	-	-	-	-	-	-	-
	1 5	3 6	250 610	5	6	500	-	-	-	-	37月13日	-	-
7	6	760	6	6	760	23	207月17日	27月17日	7月17日	7月17日	-	-	
1 2	4 3	31 83	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2	3	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
40	6	4,998	10	6	1,442	7月12日	5	107月17日	197月17日	-	7月17日	-	

No. 品 名 町 村 単 価	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	毛 布	シ ヤ ツ	ラ ン ニ グ	手 拭	下 駄	ナ ベ	カ マ	ヤ カ ン	ホ 1 丁
	802	245	100	30	100	200	400	250	120
県	64 51,328	88 21,560	199 19,900	378 11,340	190 19,000	6 1,200	4 1,600	6 1,500	6 720
松 川	214 171,628	252 61,740	556 55,600	873 26,190	439 43,900	57 11,400	45 18,000	57 14,250	57 6,840
高 森	96 76,992	113 27,685	251 25,100	377 11,310	188 18,800	26 5,200	20 8,000	26 6,500	26 3,120
阿 南	7 5,614	8 1,960	18 1,800	33 990	16 1,600	1 200	1 400	1 250	1 120
上 郷	94 75,388	116 28,420	254 25,400	422 12,660	210 21,000	21 4,200	16 6,400	21 5,250	21 2,520
清 内 路	46 36,892	51 12,495	100 10,000	121 3,630	62 6,200	20 4,000	15 6,000	20 5,000	20 2,400
阿 智	105 84,210	134 32,830	279 27,900	401 12,030	222 22,200	23 4,600	13 5,200	15 3,750	20 2,400
浪 合	8 6,416	8 1,960	16 1,600	16 480	8 800	4 800	3 1,200	4 1,000	4 482
根 羽	1 802	1 245	2 200	5 150	2 200	-	-	-	-
下 条	6 4,812	8 1,960	18 1,800	36 1,080	18 1,800	-	-	-	-
天 竜	1 802	1 245	3 300	6 180	3 300	-	-	-	-
泰 阜	15 12,030	16 3,920	39 3,900	47 1,410	22 2,200	6 1,200	4 1,600	6 1,500	6 720
千 代	2 1,604	2 490	5 500	10 300	6 600	-	-	-	-
上 久 堅	10 8,020	12 2,940	24 2,400	37 1,110	19 1,900	2 400	2 800	2 500	2 240
喬 木	70 56,140	86 21,070	192 19,200	310 9,300	156 15,600	15 3,000	11 4,400	15 3,750	15 1,800
豊 丘	140 112,280	170 42,875	417 41,700	680 20,400	336 33,600	33 6,600	28 11,200	33 8,250	33 3,960
上	3 2,406	4 977	8 800	9 270	4 400	1 200	1 400	1 250	1 120
南 信 濃	85 68,170	112 27,440	221 22,100	412 12,360	191 19,100	21 4,200	14 5,600	37 9,250	20 2,400
総 計	967 775,534	1,182 290,812	2,602 260,200	4,173 125,190	2,092 209,200	236 47,200	177 70,800	244 61,000	232 27,840

分 一 覧 表

(第 1 期分)

10	11	12	13	14	15	16	17	18	計金額
バケツ	茶ワシ	石ケン	チリ紙	ローソク	ズモンベ	ハシ	歯ブラシ	歯磨粉	
100	15	15	15	50	413	1.40	3.50	15	
6	30	88	8	8	32	15	15	6	144,417
600	450	1,320	120	400	13,216	21	52	90	
57	554	249	138	138	169	277	277	57	508,271
5,700	8,310	3,735	2,070	6,900	69,797	387	969	855	
26	246	113	62	62	78	123	123	26	226,378
2,600	3,690	1,695	930	1,550	32,214	172	430	390	
1	8	8	2	2	4	4	4	1	15,216
100	120	120	30	100	1,652	5	140	15	
21	163	117	41	41	65	82	82	21	216,713
2,100	2,445	1,755	615	1,000	26,844	114	287	315	
20	157	50	39	39	42	78	78	20	111,284
2,000	2,355	750	585	950	17,345	109	273	300	
12	86	94	59	22	64	73	78	32	228,292
1,200	1,290	1,410	885	1,100	26,432	102	273	480	
4	32	8	8	8	8	16	16	4	19,698
400	480	120	120	400	3,304	22	56	60	
-	-	1	-	-	1	-	-	-	2,025
-	-	15	-	-	413	-	-	-	
-	-	8	-	-	2	-	-	-	12,398
-	-	120	-	-	826	-	-	-	
-	-	1	-	-	-	-	-	-	1,842
-	-	15	-	-	-	-	-	-	
6	50	16	12	12	14	25	25	6	32,714
600	750	240	180	600	1,652	35	87	90	
-	-	2	-	-	1	-	-	-	3,937
-	-	30	-	-	413	-	-	-	
2	22	12	6	6	8	11	11	2	22,736
200	330	180	90	300	3,304	15	38	30	
15	144	86	36	36	52	72	72	15	162,702
1,500	2,160	1,290	540	900	21,475	100	252	225	
33	307	179	76	76	107	153	153	33	339,928
3,300	4,605	2,685	1,140	1,900	44,189	214	535	495	
1	14	5	4	4	5	7	7	1	8,581
100	210	75	60	200	2,065	9	24	15	
20	200	90	50	50	72	100	100	20	210,745
2,000	3,000	1,350	750	2,500	29,735	140	350	300	
224	2,013	1,127	541	504	724	1,036	1,041	244	2,267,938
22,400	30,195	16,905	8,115	18,800	294,876	1,445	3,766	3,660	

救 助 物 資 配 分 一 覧 表

(第 2 次分)

町 村 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計金額
品 名	毛 布	シヤツ	ラシニ	手 拭	ヤカシ	バケツ	モソベ	ズボン	石ケン	地下タビ	ハブラシ	歯ミガキ	大 人	小 人	
郡	800	250	100	30	250	100	250	550	20	250	10	10	10	90	
高 森	12	50	100	60	10	10	20	20	50	10	50	50	25	25	62,900
上 郷	9,600	12,500	10,000	1,800	2,500	1,000	5,000	11,000	1,000	2,500	500	500	2,750	2,250	
清 内 路	110	300	30,000	500	50	20	250	204	100	37,500	60	60	250	250	487,900
浪 合	88,000	75,000	30,000	15,000	12,500	2,000	62,500	112,200	2,000	50	50	50	25	20	
平 谷	4,000	50	100	60	10	10	20	20	50	2,500	500	500	2,750	1,800	56,850
下 天	30	50	95	60	10	10	20	20	46	1,500	50	50	25	25	75,720
千 代	24,000	12,500	9,500	1,800	2,500	1,000	5,000	11,000	920	15	500	500	2,750	2,250	11,300
上 久 堅	4,000	10,000	1,000	20	2,000	100	1,250	2,750	300	10	10	10	10	8	27,420
喬 木	5	40	20	600	8	100	5	5	400	2,500	2	100	1,100	720	
豊 丘	4,000	10,000	2,000	20	2,000	200	10,000	22,000	20	5,000	1,000	1,000	5,500	4,500	1,360
総 計	200	700	925	935	108	76	370	324	381	208	320	320	415	411	909,510
	160,000	175,000	92,500	28,050	27,000	7,600	92,500	178,200	7,620	52,000	3,200	3,200	45,650	36,990	



災害救助物資配分一覽表 (現地調査)

No. 1	ビニール風呂敷		筆		入		ものさし		ノ		ト		鉛		筆		消		ゴ		ム		下		敷		合計金額
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	
上郷	20	60	89	89	22	18	22	22	22	22	50	50	48	64	89	89	89	89	89	89	89	89	89	89	89	89	
竜	9 11	209 11	340 94	450	13	7	10	61	70	54	219	425	7 11	7	11	250	56 61	250	250	250	250	250	250	250	250	250	
大鹿	36	10 190		30																							
大鹿	40 80	1,300	300	5,310 771	460		80	80	800	900	180 182 676 17	450	10 17	450	450	10 200	380	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	60 10

災害救助物資 (学用品) 配分一覽表 (小学校の部)

No. 1	ビニール風呂敷		筆		入		ものさし		ノ		ト		鉛		筆		消		ゴ		ム		下		敷		合計金額
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	
川	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3,430
松	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	9,310
高	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	10,920
阿	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	70
上郷	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	6,650
消	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	4,410
阿	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5,740
浪	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	840
根	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	70
下	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	910
天	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1,120
条	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	980
竜	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	4,200
上	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	840
堅	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	3,920
木	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	8,540
豊	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	16,870
大	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	420
上	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	4,830
南	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	226	
計	6,780	6,780	11,300	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	6,780	84,070

災害救助物資（学用品）配分一覧表 (中学校の部)

No. 2	風呂敷		筆		入		ものさし		ノ		ト		鉛		筆		消		ゴ		ム		下		敷		合計金額	
	全	半	全	半	全	半	全	半	全	半	全	半	全	半	全	半	全	半	全	半	全	半	全	半	全	半		計
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3,840
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	7,800
26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	17,280
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	8,640
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2,880	
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4,440
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,200
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	720
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	840
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	6,240
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	360
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	7,320
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	9,600
35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	17,160
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	360
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	5,760
143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	94,800
10,010	10,010	7,150	7,150	4,290	4,290	7,150	4,290	4,290	7,150	4,290	4,290	7,150	4,290	4,290	7,150	4,290	4,290	7,150	4,290	4,290	7,150	4,290	4,290	7,150	4,290	4,290	2,860	94,800

C.A.C 日赤救援寄付品等配分一覧表

No. 1

C.A.C	CAC	CAC	日赤義捐物資		マツチ	石ケン	肌		着	日赤本	一般義援物資		第1次		第2次	
			毛布	衣類			男物	女物			着	社から	セト	物資	物資	物資
2	2	2	52	260	2	4	19	10	7	5	1	2	6	1	2	1
1	1	1	82	410	5	4	32	28	20	13	1	1	17	3	3	2
2	2	2	62	310	2	4	50	26	18	15	2	1	16	3	5	3
1	1	1	59	295	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1
2	2	2	54	270	2	4	25	12	9	6	2	1	1	1	1	1
2	2	2	38	190	2	3	18	10	7	4	2	1	1	1	1	1
1	1	1			1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3	3	3			2	1	3	2	2	2	4	4	2	1	2	1
3	3	3			1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1
1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5	5	5	15	75	2	3	19	10	7	3	1	2	1	6	1	2
2	2	2			1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5	5	5	52	260	2	4	17	9	7	5	2	2	1	5	1	2
3	3	3	61	305	1	4	34	17	13	10	2	2	1	10	3	2
10	10	10	79	395	2	5	67	38	27	23	5	5	3	18	4	4
1	1	1			2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2			1	2	14	7	5	3	4	4	1	5	2	1
52	52	52	554	2,770	17	65(60)	524	183	133	100	45	46	15	111	20	35
20	20	20	70	350	3	226	200	117	81	50	12	12	70	70	32	32
52	52	52	624	3,120	20	65(60)	750	300	214	150	45	58	15	181	20	85



第3次	7/9、7/10		7/11		第5次 7/12		第6次 7/13		第7次 7/14		第8次 7月15日				第9次		第10次		合計 (7月22日現在)	
	ソナー 物資 梱	缶詰 箱	缶詰 箱	物資 梱	物資 梱	物資 梱	物資 梱	物資 梱	物資 梱	物資 梱	香 梱	物資 梱	カマ 個	缶詰 箱	馬糞 個	ラメン 箱	物資 7/19 梱	物資 7/20 梱		物資 7/21 梱
8	1	4	9	1	15	23	4	0.2	12	1	1	1	1	1	3	15	30	9	604.2	
14	2	7	15	2	25	38	8	1.0	18	1	1	1	1	1	5	20	40	15	1,011	
20	3	10	22	4	37	53	10	1.0	28	2	1	1	1	2	7	27	54	22	989	
1	1	1	1	1	2	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	2	1	35	
11	2	6	12	2	21	35	7	-	15	1	1	1	1	1	4	20	40	12	731	
6	1	3	6	1	11	17	5	0.2	8	1	1	1	1	1	2	8	16	7	545.2	
8	1	4	9	1	14	22	6	0.4	11	1	1	1	1	1	3	10	20	10	491.4	
1	1	1	1	1	2	3	1	-	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	35	
1	1	1	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	25	
1	1	1	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	
1	1	1	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	39	
1	1	1	1	1	1	1	1	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6	
3	1	1	3	1	5	10	2	-	6	3	1	1	1	1	1	1	1	1	26	
1	1	1	2	1	2	2	1	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	80	
7	1	1	2	1	3	4	3	-	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	26	
7	1	1	2	1	12	20	4	0.5	10	2	1	1	1	1	3	6	6	3	80	
10	2	4	20	3	35	39	7	0.5	18	10	2	1	1	1	10	20	20	8	578.5	
27	3	7	37	4	50	75	21	3.0	31	20	2	1	1	1	20	72	18	18	874.5	
1	1	1	1	1	2	3	1	-	66	39	3	2	3	3	11	32	65	32	1,492	
10	1	3	6	1	11	16	4	-	1	1	1	1	1	1	2	10	20	6	(60千)	
139	18	70	164	22	264	399	95	7.0	192	16	9	15	50	197	425	158	158	158	(60千)	
105	-	55	125	-	190	245	66	2.0	227	-	227	-	170	290	146	146	146	146	8,265	
244	18	125	289	22	454	644	161	9.0	192	16	9	15	50	367	715	304	304	304	11,414	
県	川	森	南	郷	内	路	智	合	谷	羽	糸	木	竜	卓	代	江	堅	木	丘	鹿
松	高	阿	上	清	内	阿	浪	平	根	下	売	天	泰	千	竜	上	久	豊	大	上
郡	南	信	濃	郡	飯	田	計	飯	田	計	飯	田	計	飯	田	計	飯	田	計	飯

## 8 各種被害とその対策

### (1) 土木災害

豪雨による土木災害は飯田市を始め、郡内全町村にわたり、その被害額は6,862,635千円に達する膨大なもので、すべての道路網は寸断され、天竜川および中小河川もことごとく氾濫し欠壊した。こうしたなかで飯田建設事務所は重要路線の交通確保を急務と考え、被害続出であつたが、7月29日から道路被災箇所の応急復旧の手配を始め、また特に孤立した飯田市から上伊那に連絡する道路の交通確保が最も急務と考えられたので、伊那建設事務所と連絡を取り、伊那管内では二級国道名古屋、塩尻線の与田切橋付近と県道飯島、飯田線の日蔭坂の崩落を早急に取除き、飯田管内では飯島、飯田線が追分橋、市田橋、宮崎橋、野府橋の四か所の落橋または取付道路の流失等で早急復旧は困難の状態であるため、比較的被害の少なかつた松川町大島から県道、松除松川線および名古屋、塩尻線を経て、高森町山吹から県道伊那生田、飯田線を迂回するルートを選び、自衛隊の協力を得て復旧に全力を注ぎ、30日夕刻には大型自動車の通行が可能となり、飯田市その他災害地への緊急物資等の搬入ができる状態となつた。



飯田市北方地区



なお、その他道路も二級国道飯田、豊橋線は7月3日、同名古屋、塩尻線は7月8日、県道幸坂、飯田線および飯島、飯田線は7月15日から交通可能な状態となり、県道飯田、下呂線は7月15日から小型車の交通が可能となった。

大鹿村への道路については、自衛隊のあとを引継いで応急工事を行ない、7月25日には落合ま

で小型車の通行が可能となり、大鹿住民はようやく安堵できる状態となった。

河川については7月に入ってそれぞれ緊急を要する被災箇所の応急工事にとりかかると共に、調査設計をし8月5日からの緊急査定をうけ、その結果は別表のとおりである。

## (2) 住宅災害

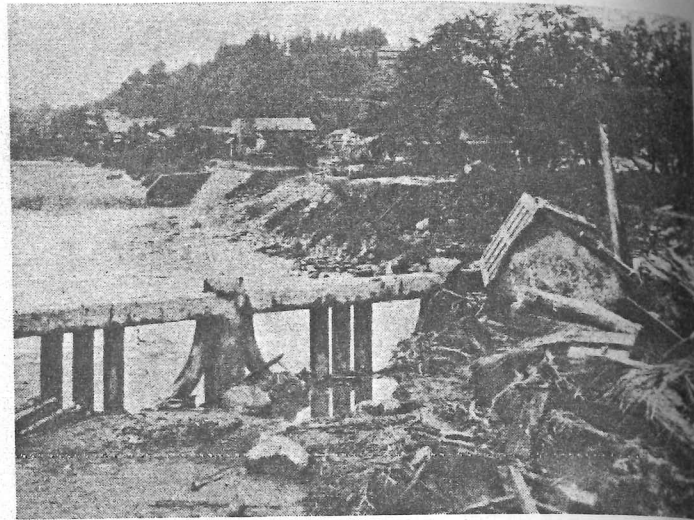
住宅関係被害は全壊439戸、流失265戸、半壊520戸等となっており、地方事務所商工建築課では住宅復興について、県建築課および企業局住宅課の応援を得て説明班を編成し、7月5日から被災町村を巡回説明した。これらの班は災害住宅復興資金借入制度、災害公営住宅制度、県の厚生住宅制度等を中心に説明し、7月6日には住宅金融公庫北関東支所より藤沢建設課長外1名の現地調査班の来郡もあり、7月10日までの間に日夜を分たず実施した。

なおこの間、7月8日には災害公営住宅建設について建設、大蔵両省から査定官が来郡し査定を行ない、11日までの間に査定を受けたもの150戸であった。

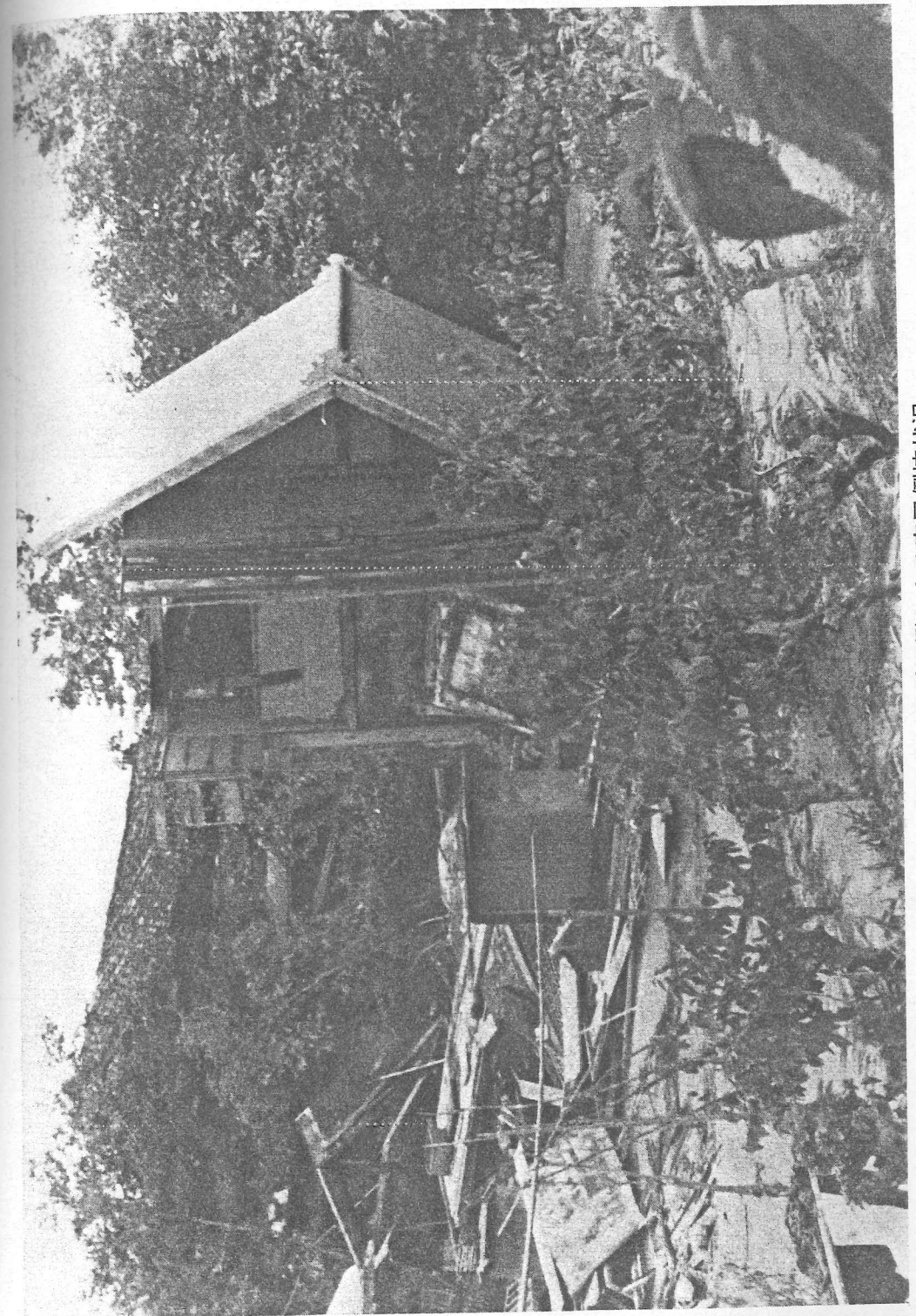
これに引続き災害復興住宅の認定事務を実施し、総認定戸数は795戸で住宅金融公庫の第1次、第2次現地審査に建設152戸、補修361戸が承認され、借入額の60%がすでに支払われた。一方災害公営住宅は申請を受理したもの134戸、厚生住宅は50戸が決定をみた。

以上のように借入れによる復興あるいは補助金による復興等の建設計画が進められている。それらの合計は建設336戸、補修718戸となっており、床上浸水家屋を除き被災住宅1,224戸に対し86%に当たっている。

ほかに応急施設住宅の建設も飯田市、下伊那郡で241戸が完了し、さらに自力建設も進められており、昭和36年度には一応被災者の住宅は建設または建設に着手し、37年度にはほぼ完了の見込である。



松川町飯田橋付近



飯田市川路地籍天竜川氾濫による家屋倒壊状況



今回の住宅災害の特長は豪雨により敷地もろとも決壊、流失するものが極めて多く、あとに述べるように移住問題が起るなど、単に住宅のみの被害でないことで、住宅金融公庫の借入申込にも敷地未定のもものが極めて多く、当初は全



松川町生田地区

体の60%を締めていたほどである。また床上浸水というなかには単なる浸水のみでなく、土砂が家屋内外に埋積したものが多く、その搬出、修理に多大の労力を要している。このように今回の住宅災害は、台風などにはみられない甚大なもので、その復旧にも幾倍もの労力、経費を要する困難なものであつたが、現在逐次復興をみつつある。

### (3) 農業災害

農作物は豪雨およびそれに伴う土砂の流入がほとんど全地域におよんだため、水田、畑作、果樹、家畜、蚕糸、すべてが大被害をこうむり、被害額は水稻の5億6千万円を筆頭に総額20億余にも達し、農民の受けた打撃は大きく、復旧のあてもなく移住を希望するものは587世帯（農業外も含む）におよんでいるほどである。

地方事務所、農業改良事務所、病害虫防除所としては、とりあえず、7月7日、8日高森町を中心に382ヘクタールの耕地にヘリコプター2機による薬剤散布を行なうとともに、各地区の稲の病害虫防除のため、動力噴霧器による共同防除を実施し、各地区農業改良普及員も全面的にこれに力をつくした。

また被災地に対しては稲苗植替希望把数156,000把を県内、山梨県、群馬県から導入し植付を行ない、畑作の代作種子として大豆6,000疔、とうもろこし1,800疔、粟300疔、甘藷苗1,000本を導入して、県有トラクターによる整地を行ない植付を実施し、酪農家が孤立して家畜飼料が不足したため、ヘリコプターにより飼料6屯の補給をした。さらに糞不足の農家に対しては、南安曇郡、東筑摩郡からの見舞品の糞3,500貫を配付し、輸入フスマ260屯を災害救助法適用市町村に配布した。

復興資金関係は次のとおりである。

農業災害復興資金（県単事業）	7,000万円
災害自作農維持資金	8,000万円
天災法による融資	9,540万円
災害総合対策事業補助金	2,700万円

さらに被害激甚地部落40を選定し、国庫補助金による部落復興をはかるよう実施中である。また農業共済補償については、早期仮払いをなし、その額は3,453万円である。農業協同組合等共同利用施設災害復旧については、飯田市川路農協外12農協で復旧総額122,186千円で目下査定手続中である。

これらのほか、長期対策として農業近代化を目的とした農業構造の改善を図ることとし、被害の甚しい1市2町6か村を対象として、次の基本方針にもとづき、禍を転じて福となすべく「災害復興ならびに農業近代化計画」を樹立し、関係機関および当該市町村代表者によつて「飯伊農業近代化推進協議会」が設立され、計画の推進を期することとなつた。

災害復興ならびに農業近代化計画樹立の基本方針

#### 1 水田地帯

区画整理、農道の開設等土地基盤の整備とトラクター調整機等の導入を図るほか、協業経営により生産性の向上を期することとした。

#### 2 畑地帯

主産地形成を主眼として作目別集団化を図ると同時に経営規模を拡大するために地域ごとに樹園地、草地等を造成し、機械化による農作業の高率化を図ることとした。

#### 3 協業化

果樹、畜産、養蚕等の計画については極力協業による経営の合理化を図ることとした。（具体的な計画省略）

また災害直後（6月28日）において、下伊那農業災害対策本部として、次の技術対策を定め市町村関係者の指導を行なつた。

農作物等水害技術対策

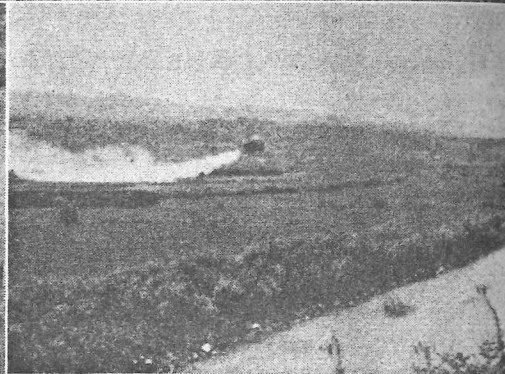
昭和36年6月28日

下伊那農業災害技術対策本部

#### 1 水 稻

- 1) 泥土砂の流入水田は、状況の観察判断によつて回復可能なものは速やかに泥土砂の取除き作業を行なう。
- 2) 冠浸水田は根がいたみ酸素不足になつているから、速やかに排水し、新しい水を十分に灌水してやる。
- 3) 水路畦畔は速やかに補修し断水しないようにする。
- 4) 冠浸水田は、いもち病等の発生をおこしやすいから、直ちに水銀剤または銅剤を散布す





上は土砂により埋没した上郷村の水田

右下はヘリコプターによる水稻の病虫害

防除

左下は豊丘村の冠水した水田

る。

- 5) 冠水による水稻の被害は泥水程度および水温により高低差はあるが、生育、全期中では低いので今後の管理を周到に行なう。

## 2 雑穀類

- 1) 泥土砂の流入の甚しいものは改めて整地を行ない品種を選んで再播きする。
- 2) 冠、浸水のものには速やかに排水し、泥の堆積している畑は軽い中耕をして酸素供給をはかる。
- 3) 倒伏等ものは、直ちに起して根元に土を寄せる。

## 3 果樹

- 1) 根部のあらわれたもの、または、これがために傾いたものは速やかに樹を起し、支柱を立て、土をかけ、できれば灌水する。
- 2) なし、ぶどうの柵の倒れたものは速やかに補修する。
- 3) 土砂流入の甚だしいものは、土砂を取り除く、流入中位ものは根元直径2メートル位とり除き軽く中耕を行なつて、なるべく麦稗等の敷草を行なう。
- 4) 浸水、冠水している園では、できるだけ排水に努める。
- 5) 果実や葉についた泥は速やかに流し落とし薬剤散布を行なう。

## 4 そ菜花卉

- 1) 泥、土、砂の流入の状況を観察判断によつて回復可能のものは速やかに泥、土、砂を取り除く。
- 2) 冠浸水のものには根がいたみ酸素不足になつているから、泥水を速やかに排水し、浅い中耕を行ない敷草を行なう。
- 3) 冠浸水ものは病害発生甚だしいことが多いので、病虫害防除を特に実施する。
- 4) 倒したものは静かにおこし、根元に軽く土寄せを行なう。
- 5) 馬鈴薯等収穫期に間近いものは排水等のあと、収穫して次期作を考慮する。
- 6) 発芽直後のもの、回復見込みのたたないものは、あと作計画をたてて計画栽培をすすめる。
- 7) 回復をまつて速効性窒素硝安(10a当り10~12kg)または尿素(7~8kg)を畦間に施す。

## 5 工芸作物

工芸作物は、その特性と被害状況に応じて1~4までの作物に準じて速やかに処置を行ない回復につとめる。

## 6 桑園

- 1) 冠浸水をうけたものは、排水溝を掘つて排水につとめる。
- 2) 桑園内の水が引けたら、速やかに全面耕起を行ない、酸素の補給をはかる、この場合石灰施用を行なつて、土壤改良につとめる。(10a当り硝石灰70~80kg)



- 3) 表土の流亡したものは、株もとへ土よせを行ない、早い機会に堆肥併用による客土を行なう。
- 4) 埋没程度の浅いものは、土砂を取除きまたは礫を除いて、株際の露出を図り甚だしいものは、その状況により処置する。
- 5) 枝条葉株についたゴミや漂着物は、速やかに除去する。
- 6) 病虫害の防除に特につとめる。

#### 7 家畜

- 1 水害後は伝染性疾病が発生し易いから、次の点の一斉実施につとめる。
  - ① えさぐいの悪い家畜は、速やかに獣医師の診断を求める。(伝染性疾病は潜伏期間は7~10日くらいであるから1か月くらいは特に注意する。)
  - ② 食欲不振または高熱等によつて急死したもの等があるときは、速やかに獣医師—市町村—一家畜保健衛生所へ連絡する。
  - ③ 畜舎は泥を除き水洗し、清掃、乾燥をはかり、乾草、敷わらの取替え、畜舎および餌箱の消毒を行なう。消毒薬はクレゾール石けん液(3%) クロール石灰(5%) 等アルカリ性消毒剤を用いる。
- 2 泥のついた青刈飼料はよく水洗してあたえ、溜水の飲水をさける。
- 3 濃厚飼料で浸水したものは速やかに乾燥し、カビの発生または腐敗防止につとめ酸敗したものは給与しない。
- 4 牧草地で冠水したものは、一般作物に準じて処理し、刈取り給与は3~4回降雨にあわせてからにする。刈取り後は10a当り家畜尿400kg、または尿素4~8kgを追肥する。

#### 8 動力農機具

水害によつて被害を受けた農機具は速やかに分解を行ない泥砂の除去等清掃をはかり、乾かす必要のものは乾かし錆付防止注油等必要なる処置を行なう。

#### 稲苗の救援

山梨県より災害見舞として沢山の稲苗が届けられ、みごとに稔り、皆が大いに感激した。そこで関係者がお礼のため山梨県へ出かけた。

これは、災害により白河原と化した水田に農家が茫然とたたずんでいた頃、惨状を知った山梨県ではいち早く稲苗収集運動を展開され、甲府市外20市町村、県下130中小学校、竜王など62農協からまたたく間に約10万束の苗が集まり、大型トラックで次々と災害地に届けられ、被害農家はこの友情に大いに感激し、直ちに約30町歩の水田に植付け、感謝の意をこめた管理の結果みごとに稔り、約3,000俵の収穫を得、郡市をあげて感激に燃えあがった。

そこでこの感激を伝えんと郡市関係代表者(西沢地方事務所長、三石町村会長、松井飯田市長、木下農業委員会協議会長、小林農協組合長会長等)1行14名が、礼状や小学生のお礼作文、植付から収穫までの写真をたずさえ、天野山梨県知事や星野農協中央会長等をたずね、心

からなるお礼を述べたところ、先方でも「たいへんよかつた」と喜びを分かちあい、1行は1段と感激を新たにして帰飯した。

#### 山梨県のみなさんありがとう

昭和36年6月の梅雨前線豪雨による長野県下伊那地方の災害地に対し山梨県のみなさんよりお送りいただいた水稻苗の補植によつて豊かに稔った写真です。

みなさんありがとうございました。

長野県下伊那地方事務所  
長野県飯田下伊那緊急水害対策委員会



① 救援水稻苗の配布  
② 豊かにみわたった補植稲  
③ 災害当時の悲惨な状況  
④ 補植苗がみわたった稲の刈取り

#### ○蚕糸関係

本郡は県内でも最も蚕糸業の盛んな地区であるが、その桑園の被害面積は555町歩におよび繭の被害は1,975疋を流失した。特に日本三大桑園の一つといわれる川路地区の大桑園は、土砂のため全地域が埋没してしまった。

蚕糸課では、冠水程度の桑園については、排水、土壤改良、漂着物の除去、病虫害防除等の技術指導を行ない、復旧に努めた。

災害発生当時未出荷繭は総生産繭の約1/3に当る400屯であつたが、道路が寸断されたため搬出の困難とみられるものが約52屯あり、自衛隊による空輸協力が得られたため、この搬出が無事行なわれた。



その搬出状況は7月2日から5日までにヘリコプターによる輸送は大鹿村24,500疋、上村5,790疋で、その他は清内路村の15,680疋ほかを迂回道路により搬出した。

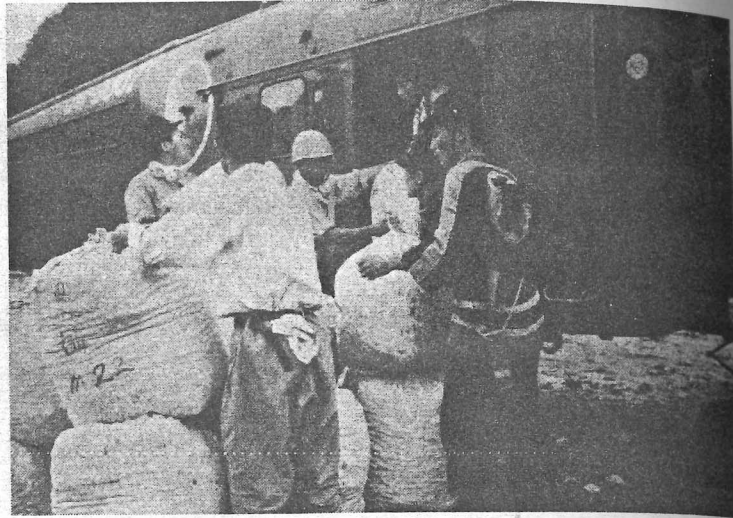
天竜社市田工場は、繭、生糸および工場建物全部が埋没し、1億4千万円の被害をみたが復旧に努力を重ねており、晩秋蚕期から繭の乾燥が一部開始される予定である。

#### (4) 耕地災害

耕地関係被害は46億余の甚大なもので、特に天竜川沿線の豊饒穀倉地帯は本川の破堤および天竜

水系各支派川からの土砂流出がおびただしく潰滅的な被害を受け、更に山間地の農地、農業用施設もその大部分が被災した。

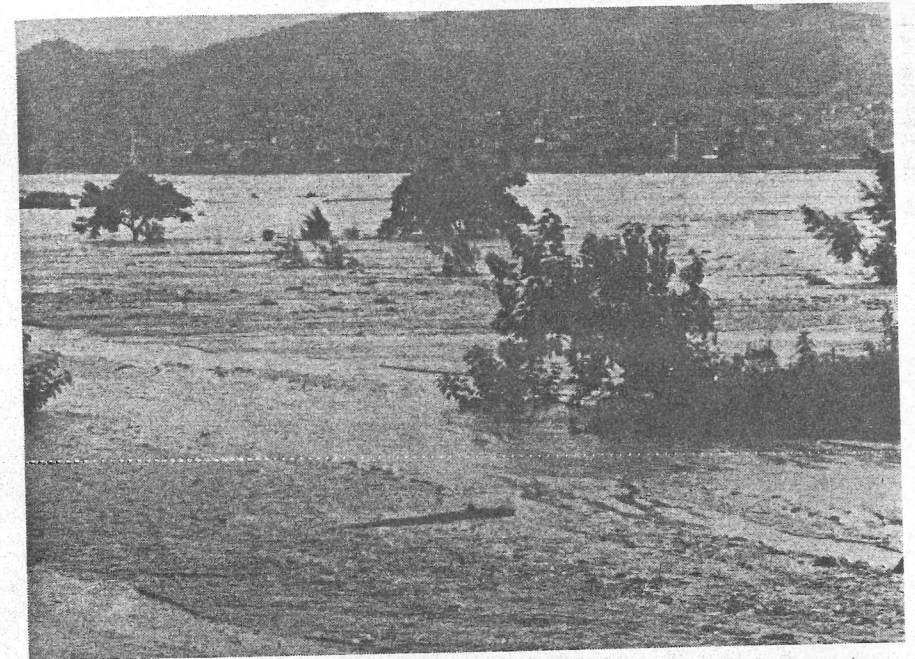
災害応急対策としてブルドーザー4台、揚水ポンプ8台を導入して緊急対応措置を講ずるとともに、7月上旬から当所職員および県庁耕地課、各地方事務所、農業水利改良事務所、土地改良事業団体連合会の各職員、県外からは東京都、群馬県、埼玉県の関係職員の応援を得て、現地の調査、測量を実施し、復旧に全力をつくしている。査定は現在進捗中であり10月中旬には終了し、災害地の緊急度等を考慮して工事に着工しつつある。被害状況等詳細は別表のとおり。



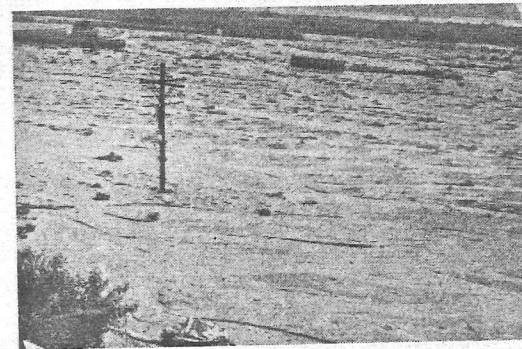
ヘリコプターによる繭の搬出—大鹿村落合ヘリポート



土砂流入の桑園—豊丘村



高森町下平駅付近の耕地



松川町生田地区の水田

#### (5) 林務災害

##### 治山

治山関係被害は郡下全地域におよび28日に喬木村、豊丘村、高森町、松川町から36万円の報告を皮切りにその被害総額は24億9,000余万円にも達した。

これに対処するため6月29日には係員始め天竜川治山事務所職員、林業改良指導員の応援を求めて現地調査を開始する

とともに、県へも応援を依頼し、翌30日には県応援隊も到着し、更に7月2日には第2次県応援も加え、7月10日には調査を終了し、17日から23日まで査定をうけ、その査定額は超緊急分25か所9,978万円、36年度緊急計画分45か所1億5,956万円となり、8月5日より工事着工となった。

##### 林道

既設村道152路線42万6,737mのうち92路線3万5,469mが破壊され、その被害は4億1,911万6千円におよび優秀林道の大部分が損傷をみた。地元では家屋、田畑の被害が大きく復旧にも手が廻らない実情であつたが、応急的仮工事でとりあえず通行を確保した。

当初としては6月30日から県の技術職員の応援を得て緊急分の測量設計を開始し、その後も他の地方事務所等の応援を得て7月21日までに、28路線241か所、1万5,596m、2億7,504万円の設

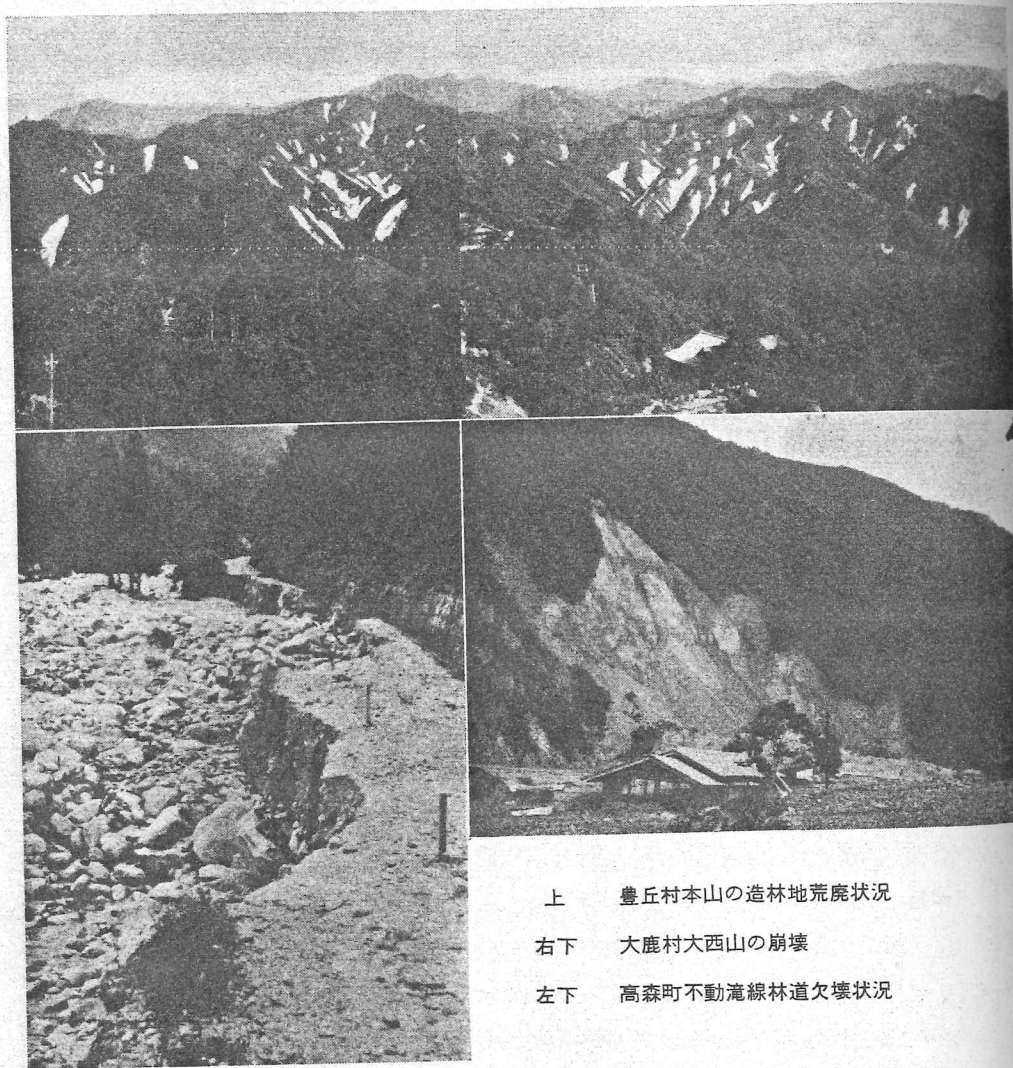


計をまとめ、7月25日から31日まで査定をうけ、査定額28路線、240か所、2億6,807万4千円となり、査定率97.5%となつた。

その後8月25日までに45路線、105か所の測量および設計をなし、28日から9月6日まで査定をうけ、査定額は45路線、105か所、1億639万3千円となつている。

現在、各市町村職員により復旧設計書の実施単価組替作業を行い、緊急箇所より逐次着工している。なお、査定額を3億7,446万7千円の復旧年次計画は、次のとおりである。

年度 復旧率	昭和36年度	昭和37年度	昭和38年度	昭和39年度	計
	25%	40%	20%	15%	
	94,000 <sup>千円</sup>	150,000 <sup>千円</sup>	75,000 <sup>千円</sup>	55,467 <sup>千円</sup>	374,467 <sup>千円</sup>



上 豊丘村本山の造林地荒廃状況  
右下 大鹿村大西山の崩壊  
左下 高森町不動滝線林道穴壊状況

## 林 産

今回の災害のため立木等が押流され、佐久間ダムに約5万石が漂着したので、これについては町村長会を中心に、飯伊林産協同組合、長野県森林組合連合会が協力して処理委員会を構成し処理にあつた。

流木処理委員会は地元県4名、長野県（飯田市長、上郷村長、天竜村長、上村長）4名とし、所有者判明のせるものは手数料を受領して引渡し、その他は現地競売の上配分することとした。

一方復興に要する資材の確保措置として、長野県、営林局、長野木材協同組合連合会の三者協議による「復興資材取扱要綱」を作成して、個人、市町村、県とも災害復旧工事の場合はその証明により指定店より購入することとし、その分については営林署で手配することにし復興の一助とした。

## (6) 商 工 業 災 害

商工業関係の被害は商業では2,025件で2億円余、工業関係では255件で2億5千余円となつており、これらは豪雨に伴う直接的被害である。例えば商品の流失、土砂埋没、破損流失等によるもので、この直接被害によるもののほか工業では機械流失、工場破損による操業不能期間、あるいは従業員の足をうばわれたこと、停電のあつたことなどにより業務停止期間があり、これらの被害額は約1億4千万円余に達するものと推定される。

商業関係においても同様間接的被害は大きく、とりあえず商工業者に金融の道を開くことが先決であり、6月30日に国民金融公庫伊那支所長が現地調査ならびに融資説明のため来郡し、公庫では災害用に大幅な枠を用意したいとのことであり、一方県と連絡して、県制度の有効利用のため小企業振興資金の申込期限の延長（第二種）その他の制度も災害地を優先するとの指示もあり、これらの趣旨を説明し有効なる利用をするようにと、7月4日から各被害地へ説明班を編成して資金あつせんに努力した。

その後、県では今回の豪雨災害に伴う特別枠融資制度を打出しこれの利用をふくめて、約1億2,000万円の資金融資を行なつた。もちろんこれらのほかに直接金融機関から放出された額も多額にのぼつており、災害2か月後には2、3の工場を除いて概ね正常に復した。なお、災害発生に伴う諸物価の高騰を防止するため、6月29日には飯田市商工会議所とともに市内各業者代表を招いて一切平常価格で販売するよう要請した。物価は青果物が輸送関係あるいは国内市場関係のため、わづかに値上りをみたが一般物価は業者の協力もあつて各店にこの旨貼り出し、予想された物価高騰およびこれに伴う人心の不安はなかつた。

一方建築資材等もその在庫を調査し、爾後の必要予想量の手配等についても業者を招いて要請するなどの措置を講じ、今日まで建築資材等は概ね充足されている。なお、商工業関係業務の一部として、災害応急物資である食糧品、日用品、衣料等の収集を担当し、飯田商工会議所あるいは業種別組合等とたびたび協議を重ね、輸送計画に従つて夜半あるいは早朝集荷するなど努力を重ねた。関係業者もまた、利害を離れて積極的に救助活動に協力し、円滑なる輸送計画の実現をみ



ることができた。

### (7) 学校災害

災害による小中学校の休業は次のとおりであり、それぞれ応急修理等により災害のあと生々しい中で授業を開始した。

大鹿村大河原小学校	6月27日～7月20日
〃 〃 中学校	〃 〃 ～ 〃 〃
〃 鹿塩小学校	〃 〃 ～ 7月24日
〃 〃 中学校	〃 〃 ～ 7月17日
飯田市川路小学校	〃 〃 ～ 7月25日
〃 〃 中学校	〃 〃 ～ 7月13日

その他救助法適用市町村は、通学道路の欠壊、橋梁の崩落等により2日～7日間の休業を行なった。学校の給食用物資も不足のところがあり、これらに対してはヘリコプター、自動車等による輸送を実施してことなきを得た。学校給食用として東京の会社からソーセージ2万本ほかの寄贈があり、災害救助法の適用市町村の小中学校へ配分した。

また、災害義捐金は日赤長野支部からの562万余円ほか東京都、大阪府等の各学校から温かい心づかいが届けられ、その額は5,811万8,538円で、各教育委員会を通じ災害児童生徒に贈呈した。義捐金のほかに救援物資（児童服、鉛筆等）も東京都、愛知県等からよせられ、義捐金同様に配分した。

### (8) その他の災害状況

#### ○中部電力関係

中部電力飯田支社管内の発電所22か所中停止とならなかつたのはただ1か所のみで、あとは26日から28日の間にすべて停止となっており、その停止電力量は30,336.1 M. W. H となつている。一方27日から一般電灯等は停電し、電柱の倒壊、滅失、折損等1,237基、電線3,639条、変圧器75等となっており、電力関係の総被害額は約3億5,000万円とみられている。

これら発電、送電、配電施設の復旧には全力を傾け、災害発生より7月10日までに復旧のため延15,440人と車両延2,691両が動員され、発電関係では6月28日から7月28日までに一発電所を除いて復旧し、配電関係は29日までに約60%、7月1日には94%の復旧をみ、9日には完全送電となつた。

#### ○国鉄関係

国鉄飯田線は6月27日より土砂崩壊、鉄路欠壊等により運行不能に陥入り、次表のとおり7月11日に復旧をみるまで、本郡の主たる交通機関の休止は、停電、電話不通と合せて、民心の不安を高めるだけでなく、復興資材の搬入にも支障を来すことが案ぜられたのであるが、辰野、飯田間が7月9日に開通し漸く安堵したのである。

不通区間	不通期間	不通区間	不通期間
飯島～七久保	6.27. 13時～7. 2. 12時	市田～飯田	6.27. 13時～7. 5. 15時
七久保～大島	〃 ～7. 5. 6時	飯田～時又	〃 ～7. 2. 15時
大島～山吹	〃 ～7. 7. 14時	時又～平岡	〃 ～7.11. 13時
山吹～市田	〃 ～7. 9. 6時	平岡～小沢	〃 ～6.29. 17時

7月11日には飯田以北は一応平常運行にもどつたが、そのため約2億余円を要し、保線区関係では静岡、豊橋、浜松、富士、沼津、南甲府、新城の各保線区から延2,500人の応援を得、また請負関係では約延6,000人、ほかに国鉄職員の動員は約4,000人に達した。しかしまだ未整備の箇所も少なく完全復旧には多くの問題も残されている。

### (9) 税務関係災害対策

被災者に対する県税関係の応急措置は、長野県県税条例による納期限の延長、税の減免、徴収猶予、換価猶予等で納期限の延長については、個人事業税には全管内一年に1か月の延長を行なつたほか、直接被災者に対し更に1か月の延長をし、料理飲食等消費税、自動車税、軽油引取税、不動産取得税、法人県民税、法人事業税等について、それぞれ1か月から3か月延長の措置をとつた。

また、税の減免については速やかな現地調査を実施して、減免対象者をは握するとともに、個人事業税、料理飲食等消費税、自動車税の減免を実施し、これらは10月1日現在個人事業税64件、料理飲食等消費税2件、自動車税7件におよんでいる。

徴収猶予、換価猶予については各税目にわたり最高1年の猶予を認める措置をとつた。



被害状況表

区分	被害	金額(千円)	備考
人的被害	死者	98人	-
	不明	2人	-
	重傷	103人	-
	軽傷	1,012人	-
住家の被害	全壊	439戸	439,000
	半壊	520戸	416,000
	流失	265戸	291,500
	床上浸水	1,118戸	223,600
非住家の被害	床上浸水	9,868戸	98,680
	小計	1,035戸	310,500
農地・経済・蚕糸関係	稲穀類	25,005反	564,867
	雑穀類	17,633反	88,441
	果菜類	4,471反	138,311
	特用作物	2,975反	37,917
	蚕糸	2,311反	42,926
	桑園	5,552反	142,287
	畜産	-	565,193
	水産	-	86,645
	農業協同関係	-	377,439
	小計	-	2,044,026
耕地関係	農業施設	5,388か所	238,731m
	農地	2,926か所	1,501町
林地関係	崩壊	569か所	1,053.5ha
	道路その他	994か所	35,469
文商公	関係施設	-	53,950
	小計	2,334件	467,534
土木関係	河砂道橋	-	226,368
	川防路梁	-	12,401,780
総計	河砂道橋	1,783か所	4,901,879
	川防路梁	49か所	209,100
	小計	5,421か所	1,423,837
	223橋	-	327,819
総計	-	6,862,635	
総計	-	19,264,415	-

市町村別被害一覽表

(単位千円)

市町村	住家	非住家	農地・経済	蚕糸	耕地	林務	文教	商工	公共施設	土木	合計
川森南郷	71,600	115,090	301,038	17,216	4,787	4,992	23,490	-	46,500	469,623	
路智合谷羽	126,600	126,600	212,636	377,910	297,381	-	9,500	5,000	493,060	1,420,270	
冬木竜草代	3,000	3,000	32,248	600,870	230,560	-	45,900	-	428,400	1,649,966	
江壁木丘鹿	62,410	62,410	153,728	99,420	37,859	165	39,820	-	155,050	1,127,352	
濃城	38,800	38,800	5,509	28,067	239,559	953	220	-	87,820	400,928	
市	41,100	41,100	51,455	126,660	147,078	-	3,760	-	446,799	816,852	
飯	13,350	13,350	5,941	7,970	90,559	872	200	-	66,690	185,582	
計	3,850	3,850	2,457	2,530	75,198	189	-	-	34,500	118,185	
田	7,900	7,900	24,329	1,330	57,745	-	-	-	9,805	94,248	
久	150	150	20,911	10,870	37,608	-	1,000	-	101,600	179,889	
上	570	570	5,846	200	7,513	-	-	-	7,030	20,737	
大	17,690	17,690	11,850	11,850	15,190	-	300	-	43,500	76,275	
飯	1,800	1,800	11,595	7,500	14,019	-	-	-	63,909	115,013	
計	46,850	46,850	14,673	1,420	47,524	-	-	-	6,770	72,187	
市	8,330	8,330	36,170	143,483	2,795	-	3,450	-	271,360	504,108	
田	48,100	48,100	23,536	2,350	14,060	-	1,072	-	11,450	60,798	
飯	199,400	199,400	56,240	132,310	152,270	-	5,650	-	177,580	572,150	
計	174,670	174,670	148,772	643,185	330,827	-	12,210	-	1,594,010	1,454,604	
市	6,340	6,340	13,602	4,580	22,438	277	2,197	-	69,070	116,307	
田	30,210	30,210	31,035	4,715	53,040	-	-	-	92,943	214,140	
飯	1,018,310	1,018,310	1,470,370	2,642,616	2,629,238	-	164,729	5,000	4,731,156	12,683,074	
計	760,970	760,970	573,656	1,992,500	566,268	-	302,805	-	221,368	6,581,341	
田	1,779,280	1,779,280	2,044,026	4,635,116	3,195,506	-	467,534	-	226,368	19,264,415	
飯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

土木関係被害額集計表

飯田建設事務所調

単位千円

区分	県工事	町村工事	計
補助対象工事	5,170,079	1,336,556	6,506,635
単独工事	356,000	-	356,000
計	5,526,079	1,336,556	6,862,635

補助対象工事工種別内訳

工種別	県工事		町村工事		計	
	個所	金額	個所	金額	個所	金額
道路	401	908,310	460	324,727	861	1,233,037
橋梁	84	139,790	139	188,029	223	327,819
河川	(27) 313	(1,224,000) 3,916,379	260	823,800	573	4,740,179
砂防	24	205,600	-	-	24	205,600
計	822	5,170,079	859	1,336,556	1,681	6,506,635

( ) 書きは内天竜川被害額

県単独工事工種別内訳 (概算額)

区分	道路および橋梁		河川		砂防		計	
	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額
15万円以下~5万円以上	960	88,400	1,110	158,500	25	3,500	2,095	250,400
5万円以下	3,600	102,400	100	3,200	-	-	3,700	105,600
計	4,560	190,800	1,210	161,700	25	3,500	5,795	356,000

県工事市町村別被害内訳表

市町村分	工種	道路		橋梁		河川		砂防		計	
		個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額
高森		10	8,800	4	3,100	(2) 9	(50,000) 351,000	-	-	23	362,900
松川		20	104,660	2	10,800	(3) 10	(89,000) 146,400	-	-	32	261,860
県		-	-	1	800	13	35,930	-	-	14	36,730
阿南		25	18,850	5	2,500	17	14,700	1	600	48	36,650
上郷		3	2,500	2	1,300	6	127,150	-	-	11	130,950
清内路		19	9,470	3	9,150	9	38,500	-	-	31	57,120
阿智		15	11,160	2	1,000	40	391,619	-	-	57	403,779
浪合		16	14,850	1	8,000	11	28,000	-	-	28	50,850
平谷		15	17,470	2	500	6	15,300	-	-	23	33,270
根羽		-	-	-	-	13	6,990	-	-	13	6,990
下条		25	22,000	1	350	(1) 13	(18,000) 32,080	14	33,700	53	88,130
売木		3	4,000	-	-	-	-	-	-	3	4,000
天竜		10	15,790	-	-	2	3,900	-	-	12	19,690
泰阜		26	17,400	-	-	(2) (2)	(39,000) 39,000	-	-	28	56,400
千代		3	1,250	-	-	4	2,600	-	-	7	3,850
竜江		5	1,620	-	-	(3) 10	(250,000) 262,900	-	-	15	264,520
上久堅		4	1,700	-	-	6	3,350	-	-	10	5,050
喬木		1	180	-	-	(5) 32	(93,000) 148,980	2	600	35	149,760
豊丘		-	-	-	-	(2) 5	(60,000) 79,000	3	16,300	8	95,300
大鹿		102	533,150	41	64,160	35	755,000	-	-	178	1,352,310
上		12	19,800	2	3,000	14	34,600	-	-	28	57,400
南信濃		10	27,130	-	-	25	56,300	-	-	35	83,430
飯田市		77	76,530	18	35,130	(9) 31	(921,280) 1,343,080	4	154,400	130	1,609,140
合計		401	908,310	84	139,790	(27) 313	(1,224,000) 3,916,379	24	205,600	822	5,170,079

( ) 内は内天竜関係 (単位千円)



昭和36年査定総計表

(単位千円)

工種	県				市町村				工事				計			
	申請		決定		申請		決定		申請		決定		申請		決定	
	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額
河川	88	3,037,536	89	2,748,543	62	682,344	67	649,479	150	3,719,880	156	3,398,022	28	34,522	28	35,653
	内仮 内応	30,297 405	内仮 内応	31,428 405	内仮 内応	4,225 15	内仮 内応	4,225 25	内仮 内応	29 6	内仮 内応	28 7	内仮 内応	420	7	430
砂防施設	11	43,894	11	43,894	-	-	-	649,479	11	34,894	11	43,894	-	-	-	43,894
	-	2,993,642	-	2,704,649	-	682,344	-	649,479	-	3,675,986	-	3,354,128	-	-	-	3,354,128
道	3	364,663	3	362,513	-	-	-	-	3	364,663	3	362,513	2	4,946	2	4,946
	内仮 内応	4,946	内仮 内応	4,946	-	-	-	-	内仮 内応	4,946	内仮 内応	4,946	2	6,116	2	6,116
橋	2	6,116	2	6,116	-	-	-	-	2	6,116	2	6,116	-	-	-	6,116
	-	358,547	-	356,397	-	-	-	-	-	358,547	-	356,397	-	-	-	356,397
路	170	512,108	167	445,806	120	88,237	119	1,045	290	600,345	286	536,641	32	20,310	32	25,615
	内仮 内応	19,260 14,606	内仮 内応	24,570 8,029	内仮 内応	1,050 10	内仮 内応	85,835 1,045	内仮 内応	33 24	内仮 内応	32 22	内仮 内応	14,616	22	8,029
架	9	11,034	9	11,034	-	-	-	85,835	9	11,034	9	11,034	-	-	-	11,034
	-	501,074	-	434,772	-	88,237	-	85,835	-	589,311	-	520,607	-	-	-	520,607
計	27	107,408	27	104,801	31	58,611	35	63,447	58	166,019	62	168,248	14	6,563	14	6,899
	内仮 内応	6,359 136	内仮 内応	6,216 36	内仮 内応	204	内仮 内応	683	内仮 内応	13 2	内仮 内応	14 2	内仮 内応	136	2	36
合	288	4,021,715	286	3,661,663	213	829,192	221	798,761	501	4,850,907	507	4,460,424	76	66,341	76	73,113
	内仮 内応	60,862 15,147	内仮 内応	67,160 8,470	内仮 内応	5,479 25	内仮 内応	5,953 25	内仮 内応	77 32	内仮 内応	76 31	内仮 内応	15,172	31	8,495
-	22	61,044	22	61,044	-	829,192	-	798,761	22	61,044	22	61,044	-	-	-	61,044
-	-	3,960,671	-	3,600,619	-	829,192	-	798,761	-	4,789,863	-	4,399,380	-	-	-	4,399,380

昭和36年度6月災害市町村別住宅建設調査表 (36.9.15現在)

区分 市町村別	災害復興住宅認定件数			災害 公営住宅	県補助住宅		応急仮設 住宅	応急 修理	住宅 改造
	建設	補修	計		厚生 住宅	公務員 住宅			
縣	3	37	40	-	-	-	-	13	-
松川町	40	37	77	10	10	2	20	-	28
高森町	54	28	82	6	15	-	19	17	-
阿南町	-	2	2	-	1	-	-	-	55
上郷村	22	11	33	-	2	-	8	4	12
清内村	1	11	12	-	4	1	5	8	-
阿智村	2	6	8	-	-	-	6	1	-
鏡合村	-	8	8	-	2	-	1	-	-
平谷村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鏡羽村	-	-	-	-	1	-	-	-	-
下糸村	1	3	4	-	-	-	1	-	-
亮木村	-	-	-	-	-	-	-	-	14
天龍村	-	1	1	-	-	-	-	-	-
豊里村	1	5	6	-	6	-	4	7	14
千代村	3	2	5	-	-	-	-	-	12
龍江村	2	10	12	3	4	-	4	8	20
上久野村	-	4	4	-	-	-	-	-	-
壽木村	2	26	28	-	-	-	8	10	-
豊丘村	26	53	79	-	5	1	10	12	-
大龍村	39	13	52	33	-	1	70	25	14
上野村	-	3	3	-	-	-	-	-	-
南信濃村	10	-	10	5	-	-	5	-	-
飯田市	124	205	329	77	-	1	80	73	-
計	330	465	795	134	50	6	241	178	179

農作物種類別被害状況

作物種類別		被害面積(反)	被害額(千円)
主要食糧、 その他	水稲	25,005	564,867
	大麦	9,649	50,313
	小麦	5,450	23,660
	裸麦	1,146	6,179
	雑穀	1,388	8,289
	甘藷	617	2,832
	馬鈴薯	1,547	20,925
	その他	811	14,160
	小計	45,613	691,225
	果樹	りんご	1,515
なし		1,463	76,648
もも		1,049	15,507
かうき		393	1,447
小計		52	104
工業作物	こんにゃく	1,970	37,428
	なたね	196	940
	たばこ	126	4,278
	茶	19	280
	小計	2,311	42,926
養蚕	桑	5,552	134,647
	幹生	13,811K	6,517
	小計	-	1,123
畜産	飼料作物	72,636トン	195,415
	家畜施設	19,977頭	26,989
	畜産施設	-	238,829
	小計	123トン	3,900
水産	魚	-	86,645
	小計	-	565,193
農協関係	農協共同利用施設	-	238,612
	事務所購買販売品、その他	-	138,827
小計	-	377,439	
合計	-	2,044,026	

林務被害状況表

林道関係	被害		申請		調査		被害		山間関係		合計
	被 路 線 数	延 長	延 長	延 長	被 路 線 数	延 長	被 路 線 数	延 長	被 路 線 数	延 長	
川	12	3,462	41	2,687	61	85.3	7	22,080	10	52,380	4,787
内	7	3,818	28	2,508	48	96.1	4	12,000	3	8,700	31,182
松	8	83,625	10	329	5	11.3	-	-	-	-	2,350
高	3	3,951	25	3,641	44	36.3	-	-	1	4,600	1,140
阿	3	3,951	75,001	3,613	44	36.3	-	-	-	-	72,370
上	11	3,095	42,557	2,210	24	59.3	2	7,200	2	6,800	38,819
清	2	4,454	324	22	8	37.6	1	6,300	1	5,000	147,078
阿	2	8,355	141	14	17	40.0	-	-	-	-	90,559
浪	4	226	1,120	1	15	32.0	-	-	-	-	75,198
平	1	110	638	20	12	26.0	-	-	-	-	57,745
根	1	135	580	12	12	22.3	-	-	1	2,600	80
下	3	225	3,452	95	7	5.6	-	-	1	1,700	1,933
荒	1	96	1,144	36	4	18.0	-	-	2	3,300	2,320
天	1	8	80	1	20	22.3	-	-	-	-	7,663
奈	2	49	190	12	12	5.0	-	-	-	-	215
木	6	1,057	11,510	711	4	4.2	-	-	1	1,500	80
竜	8	190,491	64,749	3,267	55	46.1	-	-	4	8,300	7,513
泉	5	4,019	9,032	586	70	135.4	5	16,000	9	23,110	15,190
代	5	110	390	8,090	60	185.4	4	13,000	2	2,400	14,019
江	1	110	390	8,090	7	8.5	-	-	2	2,400	47,524
屋	13	9,486	100,009	99,746	24	15.7	-	-	8	39,170	2,795
木	92	994,354	419,116	374,467	569	1,053.5	25	99,780	45	159,560	14,060
丘	1	110	390	8,090	7	8.5	-	-	2	2,400	2,795
龍	13	9,486	100,009	99,746	24	15.7	-	-	8	39,170	14,060
市	92	994,354	419,116	374,467	569	1,053.5	25	99,780	45	159,560	152,270
飯	1	110	390	8,090	7	8.5	-	-	2	2,400	7,815
田	13	9,486	100,009	99,746	24	15.7	-	-	8	39,170	330,827
上	92	994,354	419,116	374,467	569	1,053.5	25	99,780	45	159,560	503,517
信	1	110	390	8,090	7	8.5	-	-	2	2,400	22,438
濃	13	9,486	100,009	99,746	24	15.7	-	-	8	39,170	53,040
飯	92	994,354	419,116	374,467	569	1,053.5	25	99,780	45	159,560	566,268
田	1	110	390	8,090	7	8.5	-	-	2	2,400	22,438
市	13	9,486	100,009	99,746	24	15.7	-	-	8	39,170	53,040
計	92	994,354	419,116	374,467	569	1,053.5	25	99,780	45	159,560	3,195,506





昭和36年6月災害復旧事業と査定次別集計

(単位千円)

36.9.25現在

農地

農地	第一次査定		第二次査定		第三次査定		第四次査定		第五次査定予定		第六次査定以降		計		記事	
	金額	所	金額	所	金額	所	金額	所	金額	所	金額	所	金額	所		
	金額	所	金額	所	金額	所	金額	所	金額	所	金額	所	金額	所		
川					642	2	1,348	6	2,597	6	2,597			10	4,587	
森			145	1	76,710	6	76,710	13	46,226	13	46,226			82	223,347	
南			3,203	3	121,061	12	121,061	17	140,092	17	140,092			35	266,534	
郷			13,125	1	2,763	4	2,763							6	15,952	
内			1,873	8	14,055	17	14,055	3	15,893	3	15,893			29	32,052	
路						1	339							1	339	
智						2	1,552							2	1,552	
合																
谷																
羽																
羽																
条																
下																
壳																
天																
竜																
泉																
千																
代																
江																
竜																
上																
久																
堅																
喬																
木																
喬																
木																
豊																
丘																
豊																
大																
鹿																
大																
上																
上																
南																
信																
濃																
計																
飯																
田																
總																
計																

耕地被

	農地												計			
	流						失									
	田			畑			田			畑						
	か所	数量	被害額	か所	数量	被害額	か所	数量	被害額	か所	数量	被害額	か所	数量	被害額	
県	7	0.9	1,588	4	1.0	930	6	1.2	1,234	3	1.0	870	20	4.1	4,622	
松	24	40.4	111,110	14	57.1	20,040	31	55.3	40,300	30	8.2	12,200	99	161	183,650	
高	40	53.1	122,450	6	1.5	1,960	41	100.8	128,700	5	1.8	1,600	92	157.2	254,710	
阿	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
南	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上	11	10.9	25,700	1	0.1	50	7	28.2	11,370	-	-	-	19	39.2	37,120	
清	-	-	-	1	0.2	70	-	-	-	2	1.0	1,180	3	1.2	1,250	
内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
路	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
阿	15	18.3	54,900	12	8.7	17,400	60	10.3	20,600	20	1.8	1,800	107	39.1	94,700	
智	4	0.5	490	-	-	-	3	0.5	220	-	-	-	7	1.0	710	
浪	4	0.6	650	2	0.2	400	9	0.9	680	2	0.4	200	17	2.1	1,930	
合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
谷	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
根	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
羽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
羽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
条	6	0.5	890	-	-	-	15	1.7	2,490	-	-	-	21	2.2	3,380	
下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
壳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
木	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
天	1	0.2	500	2	0.2	500	3	3.6	7,200	5	0.3	300	11	4.3	8,500	
竜	1	1.0	1,600	2	0.9	2,300	10	3.0	1,500	3	0.2	1,100	16	7.1	6,500	
泉	2	0.3	120	-	-	-	2	0.2	80	-	-	-	4	0.5	200	
千	6	0.4	500	-	-	-	20	13.3	37,725	8	18.4	56,570	34	32.1	94,795	
江	-	-	-	-	-	-	7	0.9	1,500	2	0.1	110	9	1.0	1,610	
上	54	24.4	26,600	31	2.7	10,400	60	9.1	15,150	218	3.7	6,300	363	39.9	59,250	
喬	60	50.2	100,900	62	10.3	20,200	160	101.8	102,700	264	-	44,615	546	257.6	268,415	
木	27	71.5	273,900	24	17.4	16,850	25	13.5	40,600	14	-	4,650	90	128.5	336,000	
豊	3	0.4	720	1	0.3	360	2	0.2	100	5	-	1,550	11	2.4	2,730	
丘	7	0.3	650	7	6.7	1,465	4	0.1	130	1	-	300	19	1.5	2,545	
大	計	272	293.9	723,268	169	103.3	92,925	465	344.6	413,079	582	140.2	133,345	1,488	882.0	1,362,617
上	651	180.0	400,000	262	170.1	80,160	390	190.5	171,500	135	78.4	63,000	1,438	619.0	714,660	
南	總	923	473.9	1,123,268	431	273.4	173,085	855	535.1	584,579	717	218.6	196,345	2,926	1,501.0	2,077,277



害 状 況 表

農 業 用 施 設											計			
溜 池		頭 首 工		水 路			道 路			橋 梁		か 所	数 量	被 害 額
か 所	被 害 額	か 所	被 害 額	か 所	数 量	被 害 額	か 所	数 量	被 害 額	か 所	被 害 額			
-	-	4	3,299	22	1,280	7,152	5	105	1,358	3	785	34	1,385	12,594
1	90	16	10,280	85	26,770	178,840	5	1,610	4,850	1	200	108	28,380	194,260
117,000	30	223,700	129	19,430	105,460	-	-	-	-	-	-	160	19,430	346,160
1	400	4	1,950	7	181	2,670	12	53	1,660	-	-	24	234	6,680
1	2,800	9	26,060	39	6,022	32,390	7	20	1,050	-	-	56	6,042	62,300
-	-	4	1,800	5	340	2,760	12	2,328	21,117	4	1,140	25	2,668	26,817
-	-	16	4,420	111	3,031	19,760	56	463	4,780	15	3,000	198	3,414	31,960
-	-	1	2,500	9	230	1,910	1	66	1,800	2	1,050	13	296	7,260
-	-	2	300	-	-	-	-	-	-	1	300	3	-	600
-	-	5	480	3	65	750	-	-	-	-	-	8	65	1,330
-	-	7	1,200	51	1,000	5,820	5	20	470	-	-	63	1,020	7,490
-	-	1	200	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	200
-	-	8	1,020	1	-	40	58	600	1,840	3	450	70	600	3,350
-	-	-	-	5	100	1,000	-	-	-	-	-	5	100	1,000
-	-	7	920	4	-	300	-	-	-	-	-	6	-	1,220
3	170	11	3,900	126	4,217	36,518	1	5,200	8,100	-	-	141	9,417	48,688
-	-	-	-	3	80	740	-	-	-	-	-	3	80	740
4	960	14	9,710	73	4,777	53,390	7	1,616	9,000	-	-	98	6,423	73,060
713,620	34	75,300	212	22,124	280,900	9	474	2,450	24	2,500	286	22,698	374,770	
-	-	5	5,000	52	2,279	58,800	13	3,000	7,300	3	4,400	73	5,279	75,500
-	-	-	-	6	170	1,850	-	-	-	-	-	6	170	1,850
-	-	5	850	8	287	1,320	-	-	-	-	-	13	287	2,170
1835,040	178	372,889	951	92,383	792,470	191	15,585	65,775	56	13,825	1,394	107,968	1,279,999	
3420,370	195	106,120	3,006	88,438	961,615	713	42,325	178,880	46	10,855	3,994	130,763	1,277,840	
5255,410	373	479,009	3,957	18,082	11,754,075	904	57,910	244,655	102	24,680	5,388	238,731	2,557,839	

昭 和 36 年 6 月 災 害 復 旧

施 設

	第 一 次 査 定		第 二 次 査 定		第 三 次 査 定		第 四 次 査 定	
	箇 所	金 額	箇 所	金 額	箇 所	金 額	箇 所	金 額
県	3	1,684	10	18,033	1	2,661 (310)	1	233
松 川	-	-	14	(367) 29,361	13	(1,524) 12,276	18	172,030
高 森	-	-	12	29,387	15	(7,538) 55,054	38	(11,551) 131,301
阿 南	-	-	-	-	-	-	18	3,997 (185)
上 郷	1	1,106	9	(1,125) 8,118	7	12,831	23	(1,464) 23,382
清 内 路	-	-	-	-	19	34,320	-	-
阿 智	-	-	23	13,384	48	34,445	30	30,817 (1,749)
浪 合	-	-	-	-	-	-	11	4,467
平 谷	-	-	-	-	-	-	-	-
根 羽	-	-	-	-	-	-	3	1,093
下 条	-	-	-	-	41	18,303	-	-
壳 木	-	-	-	-	-	-	1	109
天 竜	-	-	-	-	-	-	2	403
泰 阜	-	-	-	-	-	-	-	-
千 代	-	-	-	-	-	-	2	1,032
竜 江	-	-	10	(451) 4,282	16	5,060	-	-
上 久 堅	-	-	-	-	-	-	5	2,162 (814)
喬 木	3	1,073	11	3,487	12	4,694	17	28,752 (612)
豊 丘	-	-	19	9,437	40	22,887	61	(2,989) 153,371
大 鹿	-	-	-	-	5	4,971	19	(446) 24,805
上	-	-	-	-	-	-	-	-
南 信 濃	-	-	-	-	-	-	11	9,947 (2,952)
計	7	3,863	108	(1,943) 115,489	217	(9,062) 207,502 (310)	255	(17,264) 587,901 (5,498)
飯 田 市	9	(1,842) 34,204	16	(292) 98,825	57	(18,221) 107,953	67	(15,626) 101,520
総 計	16	(1,842) 38,067	124	(2,240) 214,314	274	(27,283) 315,455 (310)	322	(32,890) 689,421 (5,498)

事業費査定次別集計表

(単位千円)

36. 9.25現在

第五次査定予定		第六次査定以降		計		記	事
箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額		
2	2,525	-	-	17	25,136 (310)		
14	34,774	60	130,000	119	(1,891) 378,441		
61	(231) 112,195	-	-	126	(19,320) 327,937		
-	-	-	-	13	3,997 (185)		
2	4,000	-	-	42	(2,589) 49,437		
-	-	-	-	19	34,320		
5	8,444	-	-	106	87,090 (1,749)		
1	791	-	-	12	5,258		
-	-	-	-	3	1,093		
2	576	-	-	43	18,879		
-	-	-	-	1	109		
-	-	-	-	2	403		
-	-	-	-	2	1,032		
10	43,828	-	-	36	(451) 53,170		
-	-	-	-	5	2,162		
6	2,236	-	-	49	(814) 40,242 (612)		
79	(541) 85,443	-	-	199	(3,530) 271,138		
10	11,062	20	39,000	54	(446) 79,838		
1	643	-	-	1	643		
3	3,491	-	-	14	13,438 (2,952)		
196	(772) 310,008	80	169,000	863	(29,041) 1,393,763 (5,808)		
113	(23,632) 620,769 (395)	151	150,000	413	(59,618) 1,113,271 (395)		
309	(24,404) 930,777 (395)	231	319,000	1,276	(88,659) 2,507,034 (6,203)		

台風等による商工関係被害状況報告

(単位千円)

被害額 業種別	全壊		半壊		流失		床上浸水		床下浸水		機械	製品 (半製品 含む)	原材料	商品	その他	計	企業 実数
	金額	棟数	金額	棟数	金額	棟数	金額	棟数	金額	棟数							
機械金属工業	8,600	6	2,700	-	-	-	100	2	60	7	14,990	10,100	5,200	-	6,498	44,248	18
木工業	2,730	1	100	25	18,715	28	1,686	28	2,220	49	37,547	15,305	22,371	-	7,374	108,048	85
繊維業	2,150	14	17,050	7	3,130	6	360	6	940	32	5,744	4,815	3,943	-	1,465	39,597	55
食料品工業	10,610	9	3,810	3	1,350	15	1,270	15	560	55	18,636	4,709	8,400	-	2,242	51,589	59
化学、窯業印刷 その他工業	-	-	200	-	-	9	640	9	270	5	855	1,980	5,080	-	987	10,012	38
小計	24,090	31	23,860	35	23,195	60	4,056	60	4,050	148	73,774	36,909	44,994	-	18,566	253,494	255
卸業	5,800	5	2,450	3	1,600	8	820	8	600	70	-	-	-	34,224	1,579	47,073	84
小売業	7,460	75	12,670	31	16,450	208	19,050	208	12,597	1,429	-	-	-	69,272	6,260	143,759	1,785
サービス業	620	9	1,020	6	2,300	30	2,970	30	1,297	104	-	-	-	11,429	3,572	23,208	156
小計	13,880	89	16,140	40	20,350	246	22,840	246	14,494	1,603	-	-	-	114,925	11,411	214,040	2,025
合計	37,970	90	40,000	75	43,545	306	26,896	306	18,544	1,751	73,774	36,909	44,994	114,925	29,977	467,534	2,280



水害復旧用資金あつせん調

(単位千円)

市町	村	県の特別融資		小企業(二種)		機械購入資金		国民金融公庫		その他の		合計	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
松	高	9	3,250	4	1,780	4	1,780	16	4,780	-	-	33	11,388
	川	3	1,500	4	1,980	1	480	31	2,500	-	-	39	6,460
	森	3	1,700	2	1,300	1	500	37	12,030	500	-	44	16,030
	郷	7	2,030	4	1,510	2	200	10	1,250	-	-	23	4,990
	智	-	-	-	-	1	144	7	1,950	-	-	8	2,094
	条	1	300	-	-	-	-	-	-	-	-	1	300
	江	2	1,300	-	-	2	1,000	5	500	-	-	9	2,800
	木	2	1,300	2	1,100	1	500	-	-	-	-	5	2,900
	丘	5	890	1	180	-	-	12	4,900	-	-	18	5,970
	鹿	13	6,000	-	-	-	-	3	500	-	-	16	6,500
	濃	1	1,000	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1,000
	田	-	-	-	-	1	480	-	-	-	-	1	480
	計	72	35,920	31	15,210	16	6,098	256	75,150	500	-	376	132,878

公立学校施設被害状況

	小学校(千円)	中学校(千円)	高校(千円)	合計
松	-	-	-	-
高	662	4,330	-	4,992
阿	-	-	165	165
上	-	-	-	-
川	-	-	-	-
清	953	-	-	953
阿	-	-	-	-
浪	-	872	-	872
平	-	-	-	-
根	189	-	-	189
下	-	-	-	-
売	-	-	-	-
天	-	-	-	-
泰	-	-	-	-
千	-	-	-	-
竜	-	-	-	-
上	-	-	-	-
喬	-	-	-	-
豊	-	-	-	-
大	9,331	4,876	-	14,207
上	277	-	-	277
木	-	-	-	-
遠	-	-	-	-
計	11,412	10,078	165	21,655
飯	20,320	6,691	5,284	32,295
田	-	-	-	-
市	-	-	-	-
計	31,732	16,769	5,449	53,950

## 9 各機関の災害活動

### (1) 飯田保健所の災害防疫業務

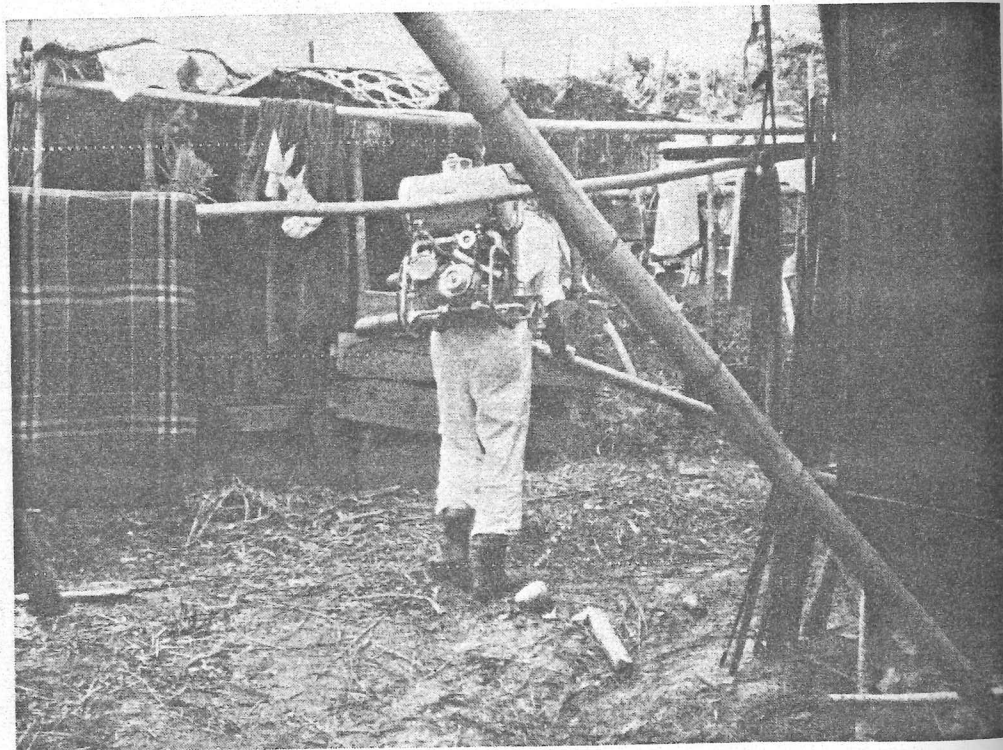
災害——特に水害後は極めて伝染病まん延の恐れがあるので、不衛生的生活環境浄化のため、家屋、井戸等の消毒、家屋内外の清潔指導、害虫駆除等のため災害防疫班8班を編成して6月30日から被災地へ派遣した。

派遣市町村は飯田市外12町村へ延70日出動した。そのためか伝染病は6月30日に3名発生し、7月9日までに43名の発生をみたが、幸いまん延することなく止つた。しかもこの患者は被災地で発生したもの5名のみで、あとは被災地以外で発生しており、今回の災害に直接関係はないと考えられる。

なお、このほか次のような活動を実施した。

#### 予 防 宣 伝

災害地では腸チフスや、赤痢のような腸管系伝染病が発生しやすいので、生水、生物を飲食しないこと。手洗の励行、家屋、井戸の消毒について放送、チラシなどによる予防宣伝を行ない周



防疫班による消毒作業



防疫班による伝染病予防注射の実施

知した。

#### 調 査 指 導

主要災害地域においては、防疫班が急行し、被災の概況、衛生環境に対する処置を応急的に行なうよう実施方法や基準を示して指導した。

#### 検 病 検 査

被災者は日夜を問わず復旧事業に忙殺され、多少の身体異状は顧みず受診しないので、これらの人々に対しては予防宣伝のみでなく積極的な検病調査を行ない、病気の早期発見、健康維持に努めた。



災害防疫日報

約束番号	区	日	1		2		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
			真症	疑似	死亡	赤痢													
6.30	日	日	3	-	-	大鹿松川(生田)飯田市(川路)	1	8	13	4	5	2	-	-	-	-	60	30,000	2
						6													
7.1	日	日	0	-	-	大鹿松川(生田)飯田市(川路)	2	16	27	35	102	2	-	-	-	-	60	30,000	2
						13													
7.2	日	日	-	-	-	大鹿松川飯田市	3	8	14	55	3	3	-	-	-	-	40	10,000	3
						22													
7.3	日	日	1	-	-	大鹿松川飯田市	4	27	54	121	70	1	12	12	-	-	164	70,118	12
						27													
7.4	日	日	1	-	-	大鹿松川飯田市	5	31	87	449	408	235	55	67	46	46	174	70,627	20
						32													
7.5	日	日	-	-	-	大鹿松川飯田市	6	42	123	708	824	257	16	8	-	-	181	71,012	25
						34													
7.6	日	日	-	-	-	大鹿松川飯田市	7	52	157	919	837	461	121	99	185	71,333	28	3	
						36													36
7.7	日	日	-	-	-	大鹿豊丘松川市田	8	62	214	1,385	840	1,455	121	189	217	72,494	33	5	
						40													40
7.7	日	日	-	-	-	大鹿松川	9	13	65	249	1,538	840	1,484	125	189	218	72,554	37	4

(2) 警察署の活動

各警察署は災害による消防団との協力による避難誘導、人命救助、死体捜索、また道路が寸断されたため、交通路確保のための応急工事について関係機関との協議、あるいは迂回路線の設定、災害状況の調査および危険地帯の調査等の業務の遂行にあたり、27日から警察署および各駐在所にあつては、寸刻を惜んでの活動が開始された。こうした緊迫と多忙のなかで関係各署は警備本部を設置し、それぞれ県警察本部への連絡、被害状況報告等がその都度遅滞なくなされ、各駐在所とも連絡をとりながら必要職員の被災地派遣等がつぎつぎと実施され、さながら戦場のよ

うな状況が、6月27日から7月5日頃まで続いた。とくに災害地の多くを管轄区域にもつ、飯田警察署は署員だけでは災害に対処できない状況のため、27日には県警察本部をはじめ、伊那、辰野、岡谷、諏訪、松本の各警察署から応援警察官が派遣され、直ちに災害警備活動態勢に入った。なお、引き続き27日には関東管区警察局長野

田通信出張所の通信技官等および県警察本部機動隊も来援し、あわせて235名が災害警備活動に出動しており、7月11日までこれらの応援態勢が続けられた。27日にはそれぞれ部分的な被害状況が判明するに至つたので、大鹿村へ51名、松川町生田へ5名、飯田市へ31名、川路へ11名、清内路へ5名、阿島神稲へ5名、河野山吹地帯へ3名、市田

光寺へ5名を派遣して水防、避難誘導、人命救助、死体捜索、交通の確保等の任務にあたつた。なお、この間飯田市野底川流域の水防に関して利害反する地区住民の間に紛争議が派生し、この警戒にも出動、あるいは自衛隊へレポートの警戒警備、交通の整理誘導等の業務が日毎に増加する一方、住民が一時的には極度の不安状態に陥つたため、山岳地帯の崩壊、河川堤防の欠壊等の流言蜚語が流布される状況にあつたため、正確な情報の伝達にも留意し人心の安定に努めた。

(3) 飯田公共職業安定所の活動状況

災害後住家、田畑等の流失により差当つて現金収入の道を絶たれた人も数多く、被災者のうち求職の申込をしたものは268人であつた。これらの就職あつせんに職業安定所も全力を傾け、窓口を被災地へ出張させるとともに求人開拓も積極的に行ない、113人の就職、67名の職業訓練所入所等のみ、約80%の落付く先を開拓し、55人が未就職者となつている。

現地就職相談は、7月16日より9月20日までの間、大鹿村10日間、飯田市3日間、松川町2日間、高森町2日間、豊丘村1日の割合で実施し、職員延106名がこれに当つた。

梅雨前線豪雨による被災求職者の市町村別状況

9月20日現在 飯田職安 調査課

区分 市町村別	被災求職者数			左のうち就職数			訓練所 入所希 望者数	紹介保 留者数	取消就 職者数	紹介対 象求職 者数
	計	男	女	計	男	女				
松川	44	36	8	24	17	7	11	1	1	7
高森	46	30	16	21	8	13	10	3	1	11
上郷	9	6	3	4	1	3	1	-	-	4
内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
清路	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
阿智	8	7	1	3	2	1	2	-	2	1
浪合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平谷	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
根羽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下条	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
売木	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
阿南	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
天竜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
泰阜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
竜江	7	4	3	3	-	3	4	-	-	-
上久	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
喬木	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-
豊丘	17	15	2	5	3	2	6	-	1	5
大鹿	69	63	6	21	17	4	20	3	13	12
上村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南信	2	2	-	-	-	-	2	-	-	-
旧飯田	7	6	1	5	4	1	-	1	1	-
飯座	5	4	1	1	1	-	-	-	-	4
松光	4	2	2	3	1	2	-	-	-	1
尾尾	4	4	-	2	2	-	1	-	-	1
田三	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伊賀	5	5	-	5	5	-	-	-	-	-
山本	3	3	-	1	1	-	1	-	1	-
市下	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1
川久	25	20	5	9	5	4	6	1	3	6
路他	11	11	-	6	6	-	3	-	-	2
そ町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	268	219	49	113	73	40	67	9	24	55

梅雨前線豪雨による被災求職者の職種別就職状況

9月20日現在 飯田職安 調査課

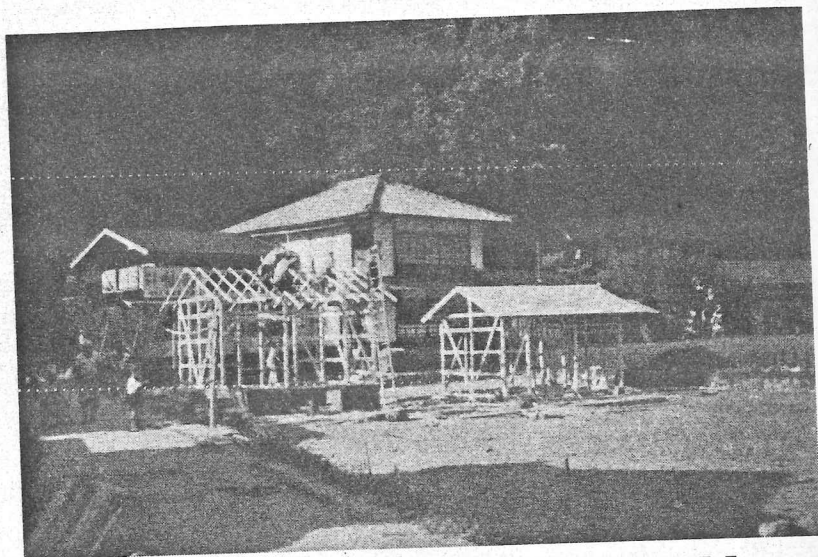
職種別	性別		計	男	女	備考
	計	男				
測量助手	1	1	1	1	-	
消防士	1	1	1	1	-	
土木監督	1	1	1	1	-	
事務員	7	4	7	4	3	
店員	5	2	5	2	3	
炊事婦	1	-	1	-	1	
醸造工	2	-	2	-	2	
塩詰工	1	1	1	1	-	
製糸工	1	-	1	-	1	
紡績工	2	-	2	-	2	
織布工	1	-	1	-	1	
染色整理工	1	1	1	1	-	
煉瓦製造工	2	1	2	1	1	
機械工	17	15	17	15	2	
電気部品組立工	16	6	16	6	10	
製銅工	1	1	1	1	-	
鋳物工	2	2	2	2	-	
旋盤工	1	1	1	1	-	
レンズ研磨工	1	-	1	-	1	
プレス工	7	-	7	-	7	
ベニヤ板工	1	1	1	1	-	
蚕具製造工	1	1	1	1	-	
木毛工	3	3	3	3	-	
竹細工	1	1	1	1	-	
運転手	5	5	5	5	-	
運搬夫	1	1	1	1	-	日通荷積下し人
土工	1	1	1	1	-	
採掘夫	2	2	2	2	-	
大工	4	4	4	4	-	
電気工事人	1	1	1	1	-	
雑役夫	22	16	22	16	6	醸造関係がほとんどである。
合計	113	73	113	73	40	



#### (4) 飯田職業訓練所訓練生派遣状況

建築大工科では、飯田市内の民家埋没現場の土砂排除作業に約20名が7日間出勤し、さらに8月1日から27日までは大鹿村へ訓練生11人、指導員2人を派遣し、応急仮設住宅の建設作業に従事し14棟を建設し、喬木村へは阿島淵静寺本堂修理のため9月5日から1か月間15人を派遣して復旧作業に当った。

石工科では6月27日には附近民家等の危険地帯の水防作業に従事し、虚空蔵山の山崩れによつ



建築大工科の大鹿村における応急仮設住宅建築現場



石工科の飯田市今宮における作業現場

て飯田市今宮地区が甚大な被害を受けたため7月10日から20日間、訓練生14人、指導員2人を派遣して、道路河川の障害となる石の割取り、片付け作業に従事した。この作業は炎天下、しかも石質不良の難作業である上に、訓練生も入所後わずか3か月で未熟、過労等で負傷の出る状態であつたが、よく懸命に続行し作業の完遂をみた。

このほか救援物資の輸送作業にも15名があたり、城下グラウンドで物資搬入を行なつた。

#### (5) 下伊那郡町村会

豪雨災害は当地方にとっては未曾有のものであつたが、全国的にはごく小地域であるため、国の救済措置が徹底しないことも予想されたので、水害発生後直ちに町村会を初め飯田市、郡市議会、飯伊農業委員会協議会、下伊那農業協同組合長会、下伊那山林協会の各関係団体により急拠郡市水害対策委員会を組織し、県と共に政府、国会に対し県内送出各代議士の応援を得て再三にわたり強力な災害対策措置についての陳情運動を行ない、衆参両院の水害対策協議会において、伊勢湾台風時と同程度の特別立法措置がとられることとなつた。

次に日赤下伊那郡地区活動としては、北は北海道、南は九州に至る全国各地から赤十字を通じ義援金品の配分を行ない、特に救援物資については交通杜絶のため本部と協力し、国鉄飯島駅、大島駅等から連日トラック数台の物資を引取り、極めて迅速に飯田市をはじめ郡下被災町村に配分した。

取扱金品は次のとおりである。

##### ○義 援 金

赤十字（義援金募集長野地方委員会）扱分	10,442,038円
一般からの寄託分	1,899,870円
合 計	12,341,908円

##### ○義 援 物 資

被害町村へ配分	4,476梱 及び 7,030点
飯田市へ配分	2,678梱 〳 1,046点
合 計	7,154梱 〳 8,076点

このほか共同募金会から467,100円が寄せられ、上記同様被害地へ配分した。

一方日赤の系統である本地区として、今次大水害による多数の死傷者、被災者救護のため日赤長野県支部および災害対策本部とも連絡し、県下各赤十字病院から救護班の急派を要請し、29日から続々到着したので、その現地への派遣、調整等を処置した。

## 10 災害に伴う移住問題

今回の豪雨災害によつて宅地、耕地等の流失はおびただしく、再建不能の地と化した地域、また将来増水、豪雨による山津波等が発生した場合の危険を考へての移住希望者がでることは、災害の規模からみて予想されたので、7月8日農地開拓課から係員が来所し検討したところ、早急な調査は当然必要であるが、被害が激甚であり、人心もまだ不安の状態であるため、転住希望者の調査は少し先にすることにした。

その後、人心も漸く安定して来たとみられる7月29日に県の応援を得て被災地の移住希望現地調査をすることとなり、市町村に協力をもとめ7月31日から、松川町、豊丘村、大鹿村の調査をしたところ、郡市被災世帯の約5%にあたる587世帯が移住を希望していることが明かとなつた。これは当然被害の激甚であつた飯田市、大鹿村で全体の半数以上を占めており、以下松川町、高森町と次のようになつている。

飯田市	216世帯	県	町	4世帯
松川町	39〃	高森町		36〃
上郷村	14〃	竜江村		13〃
喬木村	21〃	豊丘村		108〃
大鹿村	136〃	合計		587〃

これらの移住希望者は長年住み馴れた郷土に執着をもちながらなお、この地での生活不能のために他に生活の本拠を求めざるを得ないほどの災害をこうむり、また将来の危険地帯であるということで、実にお気の毒な実状である。これらの移住希望者のうち農業移住を希望するもののため、県および希望者は先般愛知県の入植希望地を視察し、入植手続等進捗中である。入植余裕地は別表のとおりであり、それぞれすでに開拓地として入植済みの地域であるため農業経営が成立たつものと考えられる。

更にこれらの入植地は本県からの入植希望者が、財産等の殆んどを流失しているので、開拓関係補助、融資について新規扱としてその適用を受けられる入植地を選定している。

また移住予定先は県外、郡外、自町村内と種々であるが、住み馴れた自分の町村で安全地帯へ移住しようとするものが最も多く、383世帯となつている。これらは単に職場をその市町村に持つ俸給生活者のみでなく、農業経営者、小売業者等いろいろであるが、知らぬ土地へ行くには不安もあり、親戚、知人等を頼つて移住しようとするもので、愛知県への集団移住以外は殆んどこうした縁故移住である。

移住希望地は県外では愛知県へ49世帯、東京都へ9世帯、その他9世帯で計67世帯、郡外では伊那市へ20世帯、駒ヶ根市へ14世帯、その他23世帯、計57世帯、郡内ではそれぞれ殆んどが自町村内移住で383世帯、その他76世帯で計459世帯となつている。

## 編集後記

今回発刊をみました災害記録は、被害状況ならびにその対策を中心に記録を収集いたしました。その復旧状況につきましては、もちろんいまだに着手段階のみしかみることができず、発刊の日

のづれもあり、満足する姿でないことを、おことわりいたします。

なお、この編集にあたりまして各種機関等のご協力に対しまして厚く御礼申し上げます。

昭和36年10月

編集者